



特別  
14  
696  
204



204  
696  
204

新承天地

皇土也

日中一名樹下宿懸

契約

今大情景景休... 三列名也

善之... 善之... 此不...

教皇... 別... 別... 別...

一善... 一... 一...

金老... 壽... 二... 白道

三石 現... 後... 此...

凸凹... 四... 皇...

國有... 行... 國...

各... 各... 各... 各...

人... 天地... 是... 下... 有... 後... 役...

不... 故... 水... 理... 有... 心... 欠... 三... 理... 在... 力... 三... 九... 年... 有... 其... 只...

有... 八... 十... 年... 利... 有... 揚... 技... 分... 三... 利... 在... 皇... 朝... 三... 年... 人... 出... 年... 見... 皇... 年... 父...

始... 云... 也... 皇... 十... 四... 年... 皇... 定... 代... 系... 以... 此... 女... 形... 作... 大... 河...

本... 立... 道... 道... 在... 皇... 朝... 三... 年... 父...

右... 所... 以... 人... 務... 志... 之... 云... 皇... 之... 孝... 天... 下... 力... 皇... 年... 皇... 必... 安... 三... 年... 子...

在... 皇... 朝... 三... 年... 父... 皇... 朝... 三... 年... 父...

辛... 水... 帶... 皇... 朝... 三... 年... 父...

用... 皇... 朝... 三... 年... 父...

王... 義... 子... 三... 人... 未... 皇... 朝... 三... 年... 父...

三... 文...



小孝  
玉品文序

文句記云涅槃經說三漏有一欲漏欲界見思兩惑

法業作欲界ヲヒテ出離不能為是眼根スレニ色等五塵對

貪愛ヲスレ思惑ト名意根スレニ法塵對右別起見惑上云二有

漏謂因果不亡ヲ有ト云色色界見思煩惱之卑生此煩惱依

色色界出離スレニ能スニ各以漏謂明了元所各各以色

三界被煩惱之卑生此各以依三界漏落 又頌疏曰有漏謂

煩惱之流過各宜窮煩惱ヲ名漏

大鼓字彙曰鼓符分切音梵說文大鼓謂之鼓長八尺

面徑四尺周禮以鼓鼓鼓軍事 又軍法極秘事他書七卷

本形軍大鼓法有牙一丈鼓封元 二筒內南各九百八千

軍神二千八百軍天來臨影向 字應敵魂出滅亡

此

也南各二十八宿大平水也 是ラウ数二十八方字頭  
ラテ書同南各九万八千八百年天受慈納  
變之玉・字敵消滅惡魔降伏南各三十六童水也 是  
名ウ数三十六方字頭ラテ書右真言佛木漆同勝木  
筆以テ書同漆ニテ付其後壇上慈敵退散法加括セリ  
分二大鼓寸法ハ筒長一尺二寸是十二天表也 是九寸是  
是九曜表ハリカケ皮一寸六分是十六善神一表リウトウ采  
ノ間五寸是五智五佛一表筒トリウ同二寸二分是十二神表  
大鼓皮ハ日月表分三大鼓革カルフ大鼓ハ惣々天地表也  
一方名ウハ廿八廿八宿一方廿六是地三十六宿分四大鼓  
打板打ハ幣ヲ勸ト陽日与ウ板廿八打陰日二十六板打ハ

分五同惣大鼓味方懸軍此三拍子ヲ九度ワニ及打  
四度月大鼓ヲ早メカツ打懸吐条作幣ヲ勸ト是九字表也  
同懸吐条ハ幣ハ王ト是ニ及勝吐条ハ也々王ニ及ツル者  
分六味方引大鼓ハ懸ノ幣ヲシリツルハ五宛九及打ハ是  
五大九字表也

晋書云韓壽字德直ト云南陽堵陽ト云人ノ當所名也  
養恩賈充是メテ司空掾ト云而ニ西貝充常ニ賓客ラ  
燕スル毎ニ其娘是ヲ青瑣中ヨリ窺見テ韓ヲ想フト切ナリ  
起臥是ヲ寤テ婢以テ艶書ヲ通ス婢即韓家ニ往ニ貝ニ  
娘意ヲ此娘亦養養ノ韓是聞テ切ニ思シテ書ヲ通メ契ル  
其比西城ヨリ名書ヲ至子ニ貢ルニ名ヒ人ニツケテ月経ヲモ其香  
欺子トシ帝甚是貴賈充ト大司馬陳寔ト之ニ頒賜

是娘と云ふは子韓と與つ時身三著上人梟衝諸人具是ラ  
惟云賈忒我娘韓ト道及知教之韓教駢常侍ト云  
官ニ至リ河南ノ尹ト成

蓮華四種有優鉢羅花青色杓物頭花黃色鉢  
曇摩華花赤色若陀利苑白色

名義集闍梨或所祇利或所遮梨耶唐言軌範  
隋言正行能糾正弟子行ラ故楞伽至註解曰所闍  
利此曰教師真言宗金胎兩部職位受故兩部所  
因梨ト云天台宗ニ慈覺大師ノ夜海外胎金外ニ台港  
頂上兩部不二秘法ヲウケル故ニ三部都法所闍梨ト申  
東寺長志所闍梨ハ初寺洲跡大慈覺ノ跡隨心隨處

勸修寺ノ縁カレ長志ニ成至

書字世空上人平安城人從四位上攝善提子一母孫氏空年歲  
將法華三十二ノ出定乃往日向國雲霧山結房居永延二年  
入空王化人來告曰憐テ書字山是就名嶺一峯ニ居此者發菩提心  
又少時  
六根淨空至山結茅蘆為席張榻為山名山名即默未  
自剝創奪曰圓教寺空於山中一每年三九月轉法  
華為法民之福增加賀法師在寺多武峯一求上孤一空送之  
賀歡息曰空ニ是法六根者欣實弘四三月十三日頂法  
華而寂年八十元亨乙書  
徒然草 イヤニケ成也。井タムタリニ  
坊佛堂二佛ノ多キ。前哉ニ石草木ノ多キ。空ノ子孫多ク人ニイ  
古佛殿ニ變 我取佛一俸ニ 一寺也人心多乘ニ  
法傳通又 尼又モナリ















○下総国若狭郡新居山稱名寺安置玉日宮出形像事  
常陸鹿嶋郡新居山稱名寺安置玉日宮出形像事  
稱名寺安置玉日宮出形像事  
七郎原新光上人喜白法師  
治陽寺山三恩七玉ト言出テリ  
局ハ其処ノ少川ノ橋ヲ隔テ居テ今ニ玉岡白河橋ト云テ其ノ奉  
後貞永比聖人稱一カト云テ玉日宮ニ玉日宮ニ玉日宮  
光ヲメテテニ佛年六十四歳建長六年九月十九日玉日宮  
佛生玉日宮告ノ文ニ云テ能莊嚴院女身禪尼号ス滅ニ  
女佛生ノ先達ト成玉日宮ノ正治二年春後鳥羽院大政天皇ヨリ  
ノ百有ノ年メテニ時慈圓僧正意ノウタニワカ意ハ松ヲシメ  
メカ多クメシカ原ニ風サハクナリノ帝此ウメテテ殿覽有テサテハ

座主ノ御房ハコヒスル人ニテサテハ一生不犯ノ文也座主ヒソカニコヒシタ  
然レカラズ遠流ノ會談ニシヨクコヒシ此僧正ノ御諫防ニ其草木ノクナ  
下ノイモモ草ノ草ノ草ニモシテハス會談ナキテナシタトイモモ草  
スルハ耳道ノナラヒナリ心ニ意ヲシラス人ヲウラム風耳ナラハナカ  
耳ヲヨメサレ公明ノ群臣ハツラハスハ珣ニヨリテタセコトトカサ  
ストノ奏ニ上カセ玉ヒケルサレハ僧正ノ存セラヌ事ヲヨメ玉トテ雪申ノ  
麴ヲ牒ト云題ラタスサレテハ僧正ノ身ニキソレニ麴ヲ左ノ耳ヤシラフ  
昨日御雲客多クトリクサテモ僧正ハ知年ヨリ天台圓宗學場ニコ  
ノ腕ヲクメシ玉ヒシカハ片此モカリ場ノ雪ニシラフラタタハス今見  
自ニキソレ麴ノ故實天性知哥ノ風骨ヲエタニル人成トテ天台座主ノ  
意ノ思名ノカメヒキサレ院系ノ使僧カ俗名ハイカトモツツノカ  
皇后官大進有範カ男奏大板ノ五條ノ如相範解卿カ指子伯父モ  
師匠モ俊成僧正ハ左ノ羽奏ス御房ハ右羽ヲツカフニ上ノ勅  
定辭退テラヌニオヨハスシテ奏ニ上レテ僧正ノ右ノ羽ヲツカフニ上ノ勅  
奏因ニカハ佛殿感ノクテテ御衣ヲ賜ハリナリ  
○常陸國那珂郡松原村松原山上ニ高寺同基明法房當山回地堪

此尾村人三ノ役ノ優婆塞遺才ニテ攝テ公禪園ト云元山卧十  
邊ニ豐前ノ信都ト号國中ノ山卧ノ司未流十二箇存有  
右國赤城郡大郡知投曾根村唐林山受法院真佛寺  
高古岡基ハ教真佛上人信性平左郎一龜山院ヨリ直佛上  
人ト勅定有  
右國唐岩郡鳥栖村老山冬量壽寺高古寺社相宗之師ニ文治  
比邊國刺史村田形部云有古ク深構ニテ佛心宗ノ道場  
村田重難立拜ニテ死スヤ高古ニ葬ル迷謬ノ魂願法入古  
スル人各村田其ヲ悲シク善成スルモ更ニヤク又存誓モ他  
移リ荒廢ノ地ト成此師聖人ト遍歷カニニ往ス人此  
少石ニ三郡法曲ハ書收存然リテ止公形部大喜存リ誓  
奉聖人ハ信系ニテルハ信信信姓率臣大織冠カコ内大臣ヨ  
十四石孫尾張權守信親ト云唐岩大宮司神職又ノ明神  
聖人師依有法号授依之弄附政呂百

右國赤城郡与佐村喜八此先祖与八重喜屋尼聖人カ之ハ  
其後ニ往邊三部聖傳ヲカムフ又ヒ未生時与八元信心ケシコ成聖人  
赤松ケ京上云如法我玉所赤飯村僧師ヲ進時等々其色  
著地ニ伐聖人ニ要又波ハ地樹玉和法迦介ニ感テハ此  
招拜ラシセヨ所兩修ハニ東多地立玉夜ニ本ハ一變未ニあ修ニ  
其後リラ今々是ヲ生ス右ツケラ御箸ノ草上云  
越後國頸城郡高田淨觀寺法多明院中ニ孝子出家多  
周觀ト号ス戲山物字隆道依之陶東下然聖人信佛  
中子ト成淨觀寺高古寺性上人付カ一箇徒與其徒ニ曰定メ  
置トコ口告佛念佛帳ノ日記事  
一法法ヲ詠詠スヤラス一縱令聖教ナラヒニ師刻ウシ玉ハ  
ル上毛師況ニソムノ北軍ニシヒテハ卑徒ノ義定アソテカカラク  
傳ルトヨリノ聖教ノヒカカレハ一佛字ノ二道ニシヒテハ互ニ偏  
破スカラス一毎知ノ身ヲ以淨淨シユムカラス一在夕師法

傳カハル輩私ニ邪義ヲ洗淨近ノ愚者ヲ上事長リ是ト云キ  
一是亦ツカカスニ其子等ヲ勸導シテカラス一念佛門ニテ多ク五逆十  
惡モ生ズト信知シテ小罪ヲ犯スカラス一各知ノ身ニシテノ戲  
海津海ノ如ク自由自遠離ス一船ノ大業ヲ止シ一夜道  
ヲハリテ獨行コトヲトシ一師長ヲ輕慢スカラス一法  
ヲテテ人ヲ難スカラス一念佛行ニ迷忽身ヲ以テ法佛如來  
トヒトシト稱スカラス一人備 兼牛馬等買以テラトシ  
一談言中言 虚言ヲ止シ一法 博奕賭之ヲ止シ一  
ノ事女ヲ憐れルコトナシ一念佛勤ノ日 留女 同座ス奇  
一同知行ノ日魚身 兼五辛ヲ食フ不許 日初行日 狂  
ヲ止シ一忌ハ其所主ノイニタハニニタカフ也 以前大七節  
修ノ甄録カクコトニ 堅クコノ法ヲ守テ之ヲ違犯スカラスヲ  
別法ヲモテヒカル輩ニシヒテハヨロシク 卓徒ノ念淡シテ中一ヲ

停止セラレキヤ

○聖人下上敬後之至的或曰喚張ニ及柳屋扇屋南アリ玉史婦  
トモニカサス重テ傳ラシク無クシテイウク傳自修玉其夜市  
教化シ至ニ彼夫婦先非ヲ悔妙法ヲ信奉其的其的九字名  
書 扇屋ニ賜ル法狂計ニ  
柳屋ニシテ宿ラカリケレハ主心ニテ成ケリ又扇屋  
叔羽之日本發足柳サキヨリニ河上茶山守川は玉一カ彼書我ニ毛防カクミ  
玉ハトテ其的聖人ノタニハツ寒天ノ故女身トシテハ一カ事トテ料法シヒラ  
キ法トテ御ラレテ法筆染ラレ名身ヲ草字テアラハレリ 俗川成ノ名多ト  
云此名身ヲ聖人ヲ信守安置ス又九字ハ柳屋傳福チニ有  
○自聖此法還留ノ内謹テ堂ノ地頭ヨリ常々發セラレ殊ニ各々請ニ申  
○智天聖御子大女白皇子内大臣御云政ヲリ  
○シテヨクシテ天智次清見系天皇上云東之  
○後云大女王子思心ノ年天智崩御サレ決ク位ヲ  
○戒命ニトシテ心ヲサシカハルノノニカ上  
○上モヒカニ名山ヨリ方女ハ是ヲキキテテ  
○山城公ハラト云知一ツ中其里人西木ヤキ奉東  
○三三セノク我思フ叶ハニセヒ生セヨト云大木  
○成其ヨリカサシテハ後勢モ多クナリ  
○江川ニテ大女王子討玉燒西木湯ヲクカカラ  
○ス生ニ三田ヨリ奉ル 序治指遺也

柳屋扇屋南アリ玉史婦  
トモニカサス重テ傳ラシク無クシテイウク傳自修玉其夜市  
教化シ至ニ彼夫婦先非ヲ悔妙法ヲ信奉其的其的九字名  
書 扇屋ニ賜ル法狂計ニ  
柳屋ニシテ宿ラカリケレハ主心ニテ成ケリ又扇屋  
叔羽之日本發足柳サキヨリニ河上茶山守川は玉一カ彼書我ニ毛防カクミ  
玉ハトテ其的聖人ノタニハツ寒天ノ故女身トシテハ一カ事トテ料法シヒラ  
キ法トテ御ラレテ法筆染ラレ名身ヲ草字テアラハレリ 俗川成ノ名多ト  
云此名身ヲ聖人ヲ信守安置ス又九字ハ柳屋傳福チニ有  
○自聖此法還留ノ内謹テ堂ノ地頭ヨリ常々發セラレ殊ニ各々請ニ申  
○智天聖御子大女白皇子内大臣御云政ヲリ  
○シテヨクシテ天智次清見系天皇上云東之  
○後云大女王子思心ノ年天智崩御サレ決ク位ヲ  
○戒命ニトシテ心ヲサシカハルノノニカ上  
○上モヒカニ名山ヨリ方女ハ是ヲキキテテ  
○山城公ハラト云知一ツ中其里人西木ヤキ奉東  
○三三セノク我思フ叶ハニセヒ生セヨト云大木  
○成其ヨリカサシテハ後勢モ多クナリ  
○江川ニテ大女王子討玉燒西木湯ヲクカカラ  
○ス生ニ三田ヨリ奉ル 序治指遺也

傳カレ奉私ニ邪義ヲ洗師近ノ愚者ヲ上事トモ是トモ事  
一是亦ツカセ其ノ身ヲ助メシカラス一念佛門ニテ多ク五逆十  
惡モ生ズト信知シテ小罪ヲ犯スルカラス一吾知ノ身ニシテノ戲  
海淨海ノ如百由旬遠離スル一船ノ大業ヲ止シ一夜道  
ヲハリテ獨行コトヲトム一師長ヲ輕慢スルカラス一法  
ヲテテ人ヲ難スルカラス一念佛行ニ迷ヒ身ヲ以テ法佛如來  
トヒトシト稱スルカラス一人佛ノ身ヲ辱ムルカラス一  
一謔言中言虚言ヲ止シ一法ヲ博奕賭スルヲ止シ一  
ノ事ヲ懺悔スルコトナシ一念佛勤ノ日留女同座ス奇  
一曰知行ノ日魚身ノ事五辛ヲ食フ不許一曰初行日留狂  
ヲ止シ一忌ハ其所主ノイヒタハニシメカフ之 以前六七節  
修ノ甄録カクノコト堅クコノ法ヲ守テテ遠犯スルカラスヲ  
別法ヲモテヒカル律ニシヒテハヨロシク衆徒ノ會談スル中一ヲ

停止セラレキ事也

○聖人下上敬後之玉的或目喚張ニ及栴旃扇屋爾リ玉史婦  
トモニカサス重テ傳ラシクハ無クシテカレシイウク傳自修玉其夜市  
教化ニ至ニ彼夫婦先非ヲ悔妙法ヲ信奉其的其的九字名  
書 扇屋ニ賜ル法狂計ニ 栴旃ニテカク宿ラカリケレハ主心ニテクニ成ケリ又扇屋  
叔羽目法發足栴サキヨリニ河上采山寺川は玉ニカレ波書我ニ毛法カクモ  
玉ニトテ其的聖人ノタニハツ寒天ノ故女身トシテハテラニ事トテ料法シヒラ  
キ法ニト御ラレテ法筆深ラレ各身ヲ草草ニテアラハレリ俗川成ノ名多ト  
云此名号聖系カ行言寺安置ス又九字ハ栴旃淨福有ニ有  
○真屋此法逗留ノ内謹テ堂ノ地頭ヨリ常々發セラレ殊ニ處々請ニ申  
修也此ヲモキ玉其的蒲原郡白川ノ庄小崎村在五郎先祖也ニテ  
神也ラメニクテラレ然ルニカ農事支梅ツケテ揚上聖人佛賞讃有テ其  
實ラ庭ナケ玉ヒ我スル法佛意ニカハハ生セヨトノ玉フニ生カレ  
大木成花輪ニ菓ハツ成之ニ俗ニハ房梅ト名味塩ハ之木ト是  
塩梅ノ實ナリ之  
蒲原郡白田村ニテ或女姓燒栗ヲ聖人指上レ栴旃中ナレニ里











一日醫之心易定二行茶キカム牛ツタイ三稜ヲ此力テ刻ム其ツカ悉ク  
消失水ト成今後病志三稜ヲ以多クヤス又或信嗜酒之レ一也又其  
胃ノ腑開ラ見レカワリ名虫ヲ下リ名色々茶ヲカケルニカモクニヤル  
休ナシ折節蓋ノ治レ時々ニタリケレテテテ汁ヲ是後ク即化ニテ  
水上成アツク又啞フ治スルノミナラズ又瀉毒百毒ヲ解トス又應声  
虫ト云レ人指申ニ言フ名ニ同ヤリ返答スルニテテ療治ノ事ニ  
アツテラカ人ニスメテテ切草ノ葉名ヲヨクケレテ雷丸ノ條下至テ  
テ各印雷丸ヲ附ラレテ療治全ク平癒ス又具母ヲ以テ  
而テ療ラズ

○千年人參根人取之之千年枸杞根狗吠草一夜至人不知也  
遊是トテテ食フ能地他ト草此ニ物遇テ稀ニシテ古女仙術学  
云云仙術云云山位之或所ナリ子味汲井下常一嬰子取廻  
仰次仰問此子抱テ仰前至レ大樹根ト草其仰大喜テ史

コシラ(意トイハセ中々熟カキキ) 抱胎糧畫ヲ師ハ里ニ下ル其目大  
雨降テ山帰ルテテテニテテ里ヲ居ス此亦和テテテテ子氣臨テ成  
可テテテテ木根ヲ食志耳香最氣ヲ忘故ヒテテテ食之ニテテ  
嗽ツク又仰惚々坤室彼童子已此テ天上跡方各此人參多妙ナリ  
又維陽ト云処ニ老人有常市申必念テト草也身ヲ必食ラ  
此を逢テ或能老人親中志リモ指申一不置ルム者々老女也身  
坐ニ草如何草ヲ見テテ見ニ路化スル在化見ニ活レ名所食日也  
世集メ茶ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
盤ヲ捧テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
強スメテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
ト云モ返答各各人自是ヲ折食スルニ食ツクニ皆ニテテテテテ  
所食是ラカテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
千歳ノ參枸杞ナリ是ラ来スルニ甚レカクキ吾日此者々佛也

感之甚返此亦早スル此有良也白日昇天他人成神某之  
食也升几物名十ヤト云ラ一坐集几正良大ニ忽他レテ金童五ヤ  
形變シテ彼老他人ヲオツリテリニ雲井故云先成子ト今亦  
信ハシ各心成る是乃何也毛天布ト云志石中智意有テ害  
スル敬言ヲ之行志宿下五箇為老智石身中我字ラキキリイカワシキ家

新序雜事五墨々士不願權柄謂テテニス立身ヲ求百性物ウケ一堅一  
忠臣ラリテ下者オウ高トシテ不有者賢上ニツ高臣君ヲイワリ老ニ  
室ヲヌムニツ財用好兵ヲ用ヒス嗜欲意アラス上心ニ入君悟ラス  
四ツ至道不有法令不行更民不正百姓不安君悟五ツ怒ヲサツキ

五雜俎云晉唐所後帝リ知郷時ニ北南門ノ左右ニ立官人ヲ古ニ  
帝ノ玉ハサレ先門外中ヲ食躬延ノ儀我ハニルト鐘申ルラキニ  
多ク便易也トツツニテ南門ノ右也其中ニ毛人ニアヤ中フヲ出スる者  
レトモ多ク也ニラタキウト本又人ノイニメモヨリキリをニテ正里ハ

有及實ニ恆ハキニアラスニ成時ヨリ始下有

四睡圖ト有是豐干寒山拾得也吾每我每心相忘也曲豐干  
天台山國清寺之庵住人何処之良又不知影ヲウツ眉如布夜ヲキ  
人佛法問ニ隨所ニ字餘言を常唱道歌偈ヲ誦虎ニ兼松ノ下  
入又守厨ニ若行セリ由一寒山一拾得也中燃キヲ幼振キ干  
孰ニ常霜ノ不ニ跡跡ツキキ跡自汝弟セリ毛人キクフ合点セ之時ニ是  
凡狂子ト云一月寒山向ヲ曲豐干問石鏡不磨如何曲豐干答  
氷壺各影後サレ授猴探水月二童子錦又元氷ニ毛ツタカカニ  
元氷ニ毛ツタカカニ  
此寒山巖中ニ住又寒山子ト略其容枯悴布襪ケテ落アリカセナリ其後  
冠大凡木ノ殿ヲハキ守傍置記時ニ行大笑言ワ狂人如曲豐干  
在石於丹丘ト云又太守呂丘隱頭痛醫瘰癧之在干一施水ヲトッ

加精之玉忽其病愈上以是上每危ラ玉玉百枚了了有ラハ固也  
二玉里子一文殊晋賢其後必法七曹平又及遷他玉玉廿二  
寒格ラ燧ニタラテ名久聞丘見終又身佛毛太守ノ知ル  
見ララフヨリ寒山丘手ラテ之ヲ白曲平鏡各々云テ指  
得ト之ヲハ再ヒ存ラズ其後ニラノ木宗領解村里ニ書  
三百余首集ラテ集セリ

傳燈録明列奉地縣布袋和尚未其氏不知其孰也  
大ナリ狂人ノ如起卧坐各技布袋荷自作佛見コトク袋入所  
又長河子号雪中三一文錢ラテテ法同有福音意示梁  
貞明三丙子三月滅之嶽林寺東廊下磐石坐傷死ラ曰ク  
弥勒直汝劫 分身千百亿時々示時人一時人自不識  
傷昇死久其後他列ニ布袋負テ行見

房傳物志云白澤圖書川黄金精名テ石磨上云其孰也如  
寂居此以不宜ナラシム白鼠ラ妻ト之昏時ニク丘陵向此物也  
云元見ルキ金有ト云

金ラ坊丹砂有下黄金有磁石下銅 陵石下鉛錫銅磁石下鐵  
息鍾工人ラ息氏云息氏此鍾ラ作ル依テ鍾ノ字上息ラ加ラ  
作志ラ息氏ハカモメ水ニ溺レヌヨリ浮ラ其鍾虚浮ニク音清  
カラニ直ラ教ス義ニトレリ周知也

漢氏及事 武帝栗姬云美人物汝有姬 帝ニ對シ姬如ト事有テ怒  
含ラニ應ニモ又帝ラ罵ラ 沈物云

銅大 今ラテ 月以日 遊人六古 遷化權與云 浮虚也 著ニ擲 沈實也 此ハ後ニ  
助ラ 溺ル 瘡テ帶ラ藉以蛇ラ見 鳥髪ラフム能ハ 處後見ニ雨フテハ水多  
白大黒 晴シトク中ラ多ム 其本 李泰伯 潛書 元耐得翁 賦日 海品有  
車 二卷 義初曰 秋迦 此能仁能ハ 々々事 各仁ハ 慈恩 意各コトナリ 各  
精思 女白耳ハ 高 某 黒大 前 足 兩白子 孫 宜 黃大 白耳 名々 衣冠

此寂然此意二點二點能通又儒云如天何言四時意法華義  
般迦文此度次燦卑生業少ヤウ下海中汰燦石水ヒリユトク  
一時安靜意各若ラスリヒ玉ニタラフ上モ是義解ナリ其年秋  
十号且是ス能仁即應身年居寂然法身  
阿耨地各量壽一佛二枝堅義有又二堅況二得也各始空  
却以前事多違却後之此佛壽年一ツルフ各理ラテ各身  
壽佛ト云扱ノ説ヲ移セト方モ具ララユル上遍滿之各身業  
業垢ヲ消滅ナシ利益各量妙徳ヲ光ニ穢土ヲ降ク降土ト  
成ス誓氣有以法淨光佛ノ緬号有是又他土佛ニラ念ニル  
ニカカラ其後ヲ現ニ玉佛ヒツキリ法池上云般迦上云千佛一  
體一ノ千佛理觀ニ此石人及フ知ニアラス惟心ニ降土念ニ性  
生ノ氣ヲ發ス  
不動底理三昧至日不動是菩提心大寂定ノ義大日王一切ノ  
障有故火上三昧ニ位久大勢至勇猛精進菩薩凡テ障魔

除テ菩提心位スノ義

華師中教切徳至十二ノ教ヲ説ク其中ニ我名号一度其耳ニ經  
時衆生病悉除ラ心身安楽成ニ華師ハ本東方淨瑠璃世界佛ニ  
者發生ノ業ヲ承玉ニ此人界ニ跡ヲ垂玉ヨリ宣ス屬又作是宣業  
師ト号久宣ハ三陽發生ノ月今正月當又十二神一年十二月分  
法度厲業降伏ス理  
彌勒降名跡云此慈氏過去王有量テ流支國氏ヲ慈云月石ノ  
今至ラ慈氏ト名ル姓ハ所遊多此各能勝降名聖疏ニ油勒ニ慈  
法慈慈 空觀 生慈慈 假觀 各慈慈 中觀 河海抄ニ油勒ハ般迦  
付屬ラウクニ生補處ノ界ト云一滅劫始ニ下生ニ玉成佛ニラニ  
會ニ説法ス中故ニ高末導師ト云般迦又滅ヨリ油勒ハ右ニ  
五十俱低六十百千歳ヲ隔ツト云一油勒下生ニ將來又遠劫  
於此國界ノ成佛ス  
圓覺聖恩疏云普賢一三自體約云此體性周徧成普云

弱隨テ徳ヲ成賢云ニ諸位ニ約シテ  
上云樞ニ鄰ノ聖ニ亞賢云ニ當位ニ約テ  
云洵一乘キ長順フヲ賢ト云云  
賢并本在る宝成法以ヨリ佛本ニ奉テ  
ゆテ未代惣厄法華行志守護シ  
メ未事成仏為ルニテハ  
名義集文殊師利此妙徳ト云  
三徳貝不獲不縱此妙徳ト云  
祥ト云

中治北道云清徳聖傍大食ニテ  
十石飯ニ炊シテ進メタニ  
所リニル者ニ坊城ノ右大殿ニ人ノカ  
ニ心ヲ下カテヨラカテ見ヨリ人  
シテ路縁ノ為カテト云

大鳥ハシ大喜ハシレテ行玉其ヨリ  
大鳥ハシ口多ハシ我ハシ千石録人目ニ  
世ハシコラハシリカハシキハシニヨラハシリ  
敷カメテ立名也夫食日聖ニ  
四條ノ小路ニ多ハシ染ハシ米ハシ糞ハシナ  
是を下可ナトサキナカリテ其  
シテ其四條ヨリ南ラニ云ト  
フ錦ノ小路ト呼ト有

人汝ハシノ本ハシ形ハシ東ハシニラ多ハシ月ハシ比ハシ肩ハシ先ハシニ鳥ハシ死ハシフ  
トカメ此人右ニ毛ハシ榮ハシ年ハシ七ハシ差ハシ能ハシ生ハシ禁ハシニ式ハシ神ハシウハシカハシレハシ今ハシ鳥ハシハ正ハシキ  
式神ニラト也將未及期ト申ル  
セラ玉ト見テ殿ノ命今宵過玉  
少將ヲ前ニ坐テ一夜加持セシ  
夜毛以テ少將ノ所ヲ加テテ



我此廢アウ台為人ニ我ニ式フ也名陰陽師也カサシモウヨキ  
人トシテラ意ニトシテアサキカシナシカカウラ我身ニラタリ我フセカシ神  
ニ討アララシムと我死体ト云ラアトカメ人ヲヤリ今陰陽師見  
カケハ頓テ死セリ為人又五位力女將ニラトリ故留ノ密屋を  
女將ニ負テ一星ヲ姫ニ仰ラ我祈ラセケル非道正神ニ討ル也  
晴ルニ見付ラシ師モ我身ニ依ル位七ノ尊モ白鬘ニ遊ル也  
白ノ鬘アキシク女將ニ又大物言テ上

續博物志云過ハ不及不如何ニモ也各善ナレ下有てシキカ  
黃公ト云者謙ラ好其女至テ養ニキ顔色公例諺退男  
故其女モラヒ事モニハ公イヤク我娘ハ御日を私志ニ非  
ミクルニモフナリ御取交依ラテテ速ス一人ニ儀ニ非ス人  
及右トカシ各人々思念ハ如子我生ツケ也キモ能キウニテ  
在テテ人情ヲ以容テスル事能クク也愛也ト云ニテ其女

アラ下テ父言仍ハ有ニトテ其女ヲ好ム志ニ成テ百ニテ  
其後ニ申ナカカリシ此依テ此女長年ヲ去テカクカカカ  
甲星ヲトテ知リカメニテ不若ト云ラテ師ト成ル

開河記云隋煬帝河内ヲ舟ラ自由ニ通下天ヲテ遊ハト  
セ此遊請スラニ也年ス兵伐ノ民間船ニシタカ子年十五ニ  
五百人撰是殿脚女ト名付天子欲舟ノ至下ニ一條ニカシ  
牽シメ間ニテニ羊十口以テ吊云此成テ是也年ス人々熱ニ  
翰林字名基ト云者計奉請垂柳以テ汴梁ノ雨捏上我此  
一樹根岸ヲウチニ舟シケル甚長以三舟ヒク羊甚多食ラ上  
喜テ民間詔有テ柳一株有之正ノ練リテ染フ是ヨリテ  
百姓我ヲラシトキラフ此テヤル帝自一株種(五ノ大臣請卿至  
百姓ニテ我モク種タリ載一畢テ帝自御筆ヲ下リ垂柳一姓  
賜フヨリ揚柳ト云付ナリ煬ト揚ト音同ニキヨリ如是申  
且ヨリ揚柳ト申ス

海疑雜事嶺南ニイソモ一足ノ熟ニテ牛足ヲモ三指雄ヲ山史ト云

雌ウ山カ燃レ夜人ノ門ヲクシスイテテ雄ハ金ヲ来ル雌ハ脂ヲモテクナリ  
山カ姑コトコト山ウハ来ラスヤ山丈ハ山カ男コト見スルヲ亦カ山カ丈ナリ  
リスル山人ハ時々クテ燒ス火ニアルニシテ  
子孫孫ハ親孫子自孫子曾孫玄孫來孫鼻孫仍孫雲孫  
七有孫雲孫ハ之祖也親ニツクテ下其親輕ク遠ニ存雲ノ  
如又道ニ隔タル耳孫ト之也何カ再キシテ分リ云以云之  
群碎銀之東方光の電王所掲多南方光の電王所載テ  
曾西方光の電王所載多光北方光の電王所載多未尾  
此名又同時ハ一切ノ怖遠離又伸況也  
續禮儀云仲秋月ハ九年ノ老人杖ヲ端ニ玉テ危ヲ作テ着クニヨリ  
危ノ杖上云フナリ危ハ不咽ノ名也老人ハ腰カルニ乘弱ニテヤリ是名也咽ビ  
夕夕ニツクテクニツクナリ又今俗ニ年内ニ危ト云字指光ニ合津ニシ  
危ハ時々クテ燒ス火ニアルニシテ是ナリ

玉堂漫筆大卷五年四十八卷唐開元ノ間多總結經緯指目録  
其後自貞元間又新至百餘卷坊其後宋至道以爲雜律カ  
譯在新至又九年五百卷其後代々添所多也元明石ニ至テ  
自ラ減ス  
五雜相云天在人性實實ニシテ義尚ト淫乱盜賊後世又人刑ルニシ  
水火稱毒四刑有水ハ石人トガリニ付尊サラテ是水中入石浮カル也ハ  
其人意邪曲有火ハ鐵ヲ灼キテ其科有人ニ抱キ持也曲ハ石ニ至テ稱ニ  
熱ニ至テ直ニ至テハカ毛損テ事無稱ハ人ト石ト其重ヒクテ是稱  
ニテテ虚ハ石輕ク實トハ人重シ毒ハ毒也羊ト中入是ラ食ハ云  
曲ハ石ニ至テ直ニ至テハカ毛損テ事無稱ハ人ト石ト其重ヒクテ是稱  
清暑筆讀云其心腦賢腦相去事八寸四分是天地去事八寸  
四千里又人子刻ヲ已刻至此賢案生牛刻ヨリ亥刻ニテハ  
心血生是陽ノ子ニ生テ地系上升テ已至テ危ル張ハ年ニ生テ天系  
下降テ亥ニ至テ格ト違テ人身天地背カル也云  
忘ハ其八孝勇忠信礼義廉耻ノ後也

沈存中筆談云一峰蜘蛛網カケ蛛ハイツカハシク蜂ヲモトヒト見ル  
蜂ノ多シカカ蟻ガ地ヲチ息友アリト見エヤリクニ懸ルリ年ヲ以テ  
カキノ角ヤ年虹虹ノ糞ヲトリ其サレタ必ク竹各ニ須臾有ルカニ  
成ツニ峰ヲ踏ミタリ上云

名ノ張陽見味ハコカ茶アツクナリテ陽ニ純ナリ故夜宿シラカ  
賦能スル味ハコカ味ハコカ味ハコカ味ハコカ味ハコカ味ハコカ味ハコカ

此乃能ト云云孔子九曲珠ノ是穿通セトスルモ孔子ノ知也  
耶耶代醉云孔子九曲珠ノ是穿通セトスルモ孔子ノ知也

二七能ト云ハスニテ女有テ孔子教テニ録ニ脂塗蟻ノ道云  
我乃能ト云ハスニテ女有テ孔子教テニ録ニ脂塗蟻ノ道云

虹天明家立日条下地条無意ノ条ヲ吸動スル時熱条旋流  
起定水値テ水及酒スニ生虫有テ是ラ成テ人思リ朝ノ虹ハ雪

リハ昔者ノ東立日ノ光ヲ後ツル先天下ノ家流ニ又生類ハ  
ニテハ各各ノ祥驗集云韋韋ト云有蜀守謹ト成トキ賓客

十年人あ亭ト云ハ酒宴トシテ居ルハ俄ニ風雨通テ冬冬天集  
雪宵ハ忽虹蜺宮ヨリ下其首自懸ルニタリ亭客大愕ク時々

坐ラ去テ見ル遂ニ坐飲食食喰ヒ盡セリ其首自見ル蟻長  
首ニ似タリ其氣紅ナリヤ久シク名見テリ其首自見ル蟻長

吾因虹蜺ノ妖疹条我我ノ事有其日酒宴ヲ止一坐中河南  
豆盧罽野云是天使タリ邪ニ降ルキ屋上成正降ル時成

公元ヨリ正今ヨリ是祥ナラシムモ喜其信十月之都ヨリ名ナ  
中書令官ニ上

大和物持大和言其氣為赤色ナリシモ其首ハ赤ニハ明ニモ奉ラテ  
霧愛也右名ノ人ノイカニシテ見タリテ霧ニ星ヲカトセシ鳥

カキ条與列漢香ノ郡ト云処ニテ其ノイキニ遊行漢香山ハ  
庵ヲ作リ以カラスラ名ノ果カテ物トモトメテアリテ此女ニ命

廿七年月歴タリテテリ新テ子シ懐妊タリテアハル男里ニ廿二日  
二月山由ラサリケルヲ名情ク意ト思タリニ必見ハ山并有テ

鏡ト云モノ多キ故我カホ見変モ久クナクナクナクナクナクナク  
顯ヲ移シテ見ルニ著クヤリニモナクナクナクナクナクナクナク

淺カ山顯サ一見ニ山ノ并ノ人ヲ思フモノカ

トヨシヲ此井ニ身ヲ控ケ死セリト云カレ氏古今序ニ六首葛城大玉陸  
奥一寸ハシテ糸女ナリケル女ヲヨシヲ奉ルト有何寶十ハ及ニラ  
糸女ノ先ハウチノ淫ニウチノ女也似タリ  
野客叢書云 猶鬼每人ニイテ殺ス其死カレカハ財おヒカニ猶  
るハカ移リ其ハ傷其時王拂之速國守一十カレ 猶鬼ハ老相  
精愛ニテ鬼城ト奉ラ人傷治又術ヲ以テ是ラツカイ人毒害ス天  
竺南蠻ハテ有日女大神ハ一室トルノミ  
瑯琊代醉云王陽朋アルハ一守遊テ一室ヲ見ニ射トサスコトハ  
十六名密ニ何テ時ノ人ノ入カレ氏不知体ナリ陽明是ラ角見ニ云守  
傍ニ并ス中ニ入定傍有門閉テ五十年陽明ニイラ角ヲ見見ハ  
會中ニ坐セル傍儼然生如其死酷々陽明首タリ先生曰  
此豈吾前身トカレト壁ノ間ノ一詩見ハ  
五十年前王守任 閉門無是閉門人精靈剥後還歸後  
始信福所不壞身  
陽明此ト云ニ吾身張然死後又塔ラカレト云ニ塔ニテ去ル

廣異志云唐時奚官劉三後上云者能三生事ヲ言ニ受テ帝  
自於我前身ト馬依馬意ヲヨリ知ル馬場在時驛望嘶啼  
傷心心ニ通ニ手ノ上東坡詩曰

老驄奚官驛且顧 前身作馬通馬語

墨莊漫錄云 昨有父ヲ中散ト云ル者三十年前所書之後  
中是身ヲ弟ヲ若ク我生羊ト云ラ今屠公有今夜五更ニ  
殺ハヤリ我弟ヲタスケルヨリ羊首ノ羊有戎後身ナリト又上者  
同書之時已四更之所ヲトヒテラヤ者ヲコシ屠屋を行名ニ首  
惡キ羊有アリセラフ人天中羊首ニミカシカト夫婦油油  
菓子懐中ニ彼羊ニラヌ教年ヲ云ニ羊有又  
續日本文天皇帝云四年三月道照和尚河内國丹波郡人之  
俗始船連ト云之海矢入夜歸船ニテ大和元興古東南ノ  
乃能於多福渡ヲ建ラ任ス其後法國遊行ニテ路ニ  
少塔リ法津ニ居リ守リヲ置テ能ラ備ハ又宰治捨此後

望洋  
向著

道に四千里七千二遷化子雲系云云三ノ火葬又云下火葬  
始メリ又天白皇毛少翁奉祀又文天皇帝佛宇持統天皇  
天皇皇二史考云云夜四國水迄其江上水波風初波段の如  
藝文類聚云云夜四國水迄其江上水波風初波段の如  
才即巴字古文字似名ヨリ四國江ラ巴蜀ニ巴蜀ニ名ク  
又波尾改神社破風懸魚上解作鴨居鴨居懸魚  
木葉辨此皆出ラフ忘心  
輶馬録云五臺山名有寒號蟲ト云四足ハ翅有也  
飛テラ又其飛鳥ハ五靈指ト云其此乃成鳥有當ラ羽走  
文辨ウルル自吹ク風飛不如深雪嚴寒ノ際至毛羽  
飛テ此ノキコリス甘カラノ殼纏ノ如シ自吹ク得過々々ト  
嗟々々此ハ中一執守志十中一々々々志ハルルハキニナリ  
去ラシラスニ平然然々々々々自惚若クム

魏大史ト云者周宣ト云云善多ラ古フ大史ニ白鳥狗ラ多見ニ  
白日ゆ美食ニラハ中ノ多、車ヨリ隨脚ヲ折テ修多ハ及  
先史也善修クアヒ又其由因因日ゆハ白鳥狗祭祀ニラハ是美  
金年ノ中善ハ白鳥車ニキムラハ依テ車ヨリ隨ツ後善先史ニ至  
白鳥狗必キカラ革ヤリ名ニ燒カハ是以先史ハアト玉  
搜神記云漢武帝函谷關ニ本物有テ行幸道ニ過リ其身  
長ク教テ丈其飛牛ニ似タリ青踞四足玉ニ又ラハカセヒ不効  
百官大ラシル東方朔是見テ酒ヲ取テ斟十斛酌ツク始テ  
有テ帝其故ヲ問玉亦名朔曰是名テ患ト申ス此処必秦家  
獄也ノ跡是非人ヲアツタ人足ハ成工作板築也知アトナラマシ  
ヨリ人ハ憂ラ忘レシムルモナラハ放灌テ憂ラ消スト云ハ帝ハ是ツキ、  
其博議ニ感ニ至ラ  
五雜俎云北極隆中ニ有テ客有甚書彌ラコト云ム坐未滿十ラハ  
間ニメラコトニ見テ侯其ハヤキフ慨ニシラ密カニ見ラハカトヨク  
然々木人コシラハ其速ヤナラハ恐カ如シ或侯因テ其術ヲ考メ

木牛流馬の作り又千里舟日二百里行又折南車担里  
鼓車家の人が鼓う

○布衣本齊國忘之病志有行時止忘臥時起また心其  
患我國艾子ト云人有ヨリ塘暗病治是行ヲ治ト云丈馬  
糸日夕夕サレサレテ行道中ニテ方便ヨリ見キ難故馬ヨリ下立  
馬ラホニキ矢ヲエニサレ時ニ左ノカマカリ見キ難有眉ヲヒラメテ  
ニキカナ流矢トコニ有向方ヨリオチテ飛ニ中ヲカレ仕合ト云テ  
右顧ミ其長見ワラナムサレオウトテ足ヲ擲テ大雷其ヲテラテツ  
ケアタラ履ヲ汚スルノ惜サヨトツヤキナカラ馬ニムテウツ先之ハ  
行ス再ヒアトニメリカレ行ホト順更間我あるルカラテ門外  
徘徊トは何人ノ居宅ソトウヤウ見テヤウチオチカレ是ユリ  
艾子宿テ下馬ヨリ下リ教テヌクニセウト云其書目是ニテ  
其忘ル夜ト云毒カリシ也ニテ夫レトセハ信男未見モセ中  
カカ澤山サレワニムラシカリヤルトツヤリノモアテリニ云云  
也云云

甘澤諺云云三思ト云人則笑皇太后衣氏一也名ハ天下ニ  
驕リ過ク上男色好テ素娥ト云哥妓五絃琴善彈ト三思  
抱テ大喜酒宴飲ス一日公卿友吏遊至ト其中ニ狄仁傑ト云  
者其目赤多怒其坐不必明日也子孫心ス此後世酒宴  
先テ到サレト云素娥三思ト云白梁公ハセリ志正キオチ其  
性ヲ抑ヘシヤス又再ヒ酒宴有リモ梁公ハセリカラト云三思云  
重テ不事志トス其家ヲ救セト憤ト云教日問テ又酒宴有  
法賓ハ未見ニ梁公早シテ至素娥あシテ其舞ヲ見ト云召  
之ハラ有テ人近從也弟ソカスレニ歐ト云在也ふ知三思ト云  
内入タヌトモ有知不知忽堂奥蘭麝香カフノ際ニ其名ニ  
耳ラヌニシテキケレ即ツカ音ヲ其細キ下赫如公ヌメテ  
梁公ハナルコト各用ト申問不用召玉其儀ト生友カウ又三  
思ト云トテ其故キソカ養テ其ハ他ノヤシニ感テ非ス我故ト  
姓天帝便ニテ公ウラウカレ再ヒ李氏ト云下世サレト云云

今漢公支時正人存故今是見ハハカレ一カク他あり成り  
其後向是返りモをニ思是即を席ニ申かりカ果シ  
其其れ故ニ玉の別天此の奏一夜下又スレカラ  
則天毛天ノサツク所人作ニカナル下ニカス

雨陽雜俎云夜玄宗隱飛道士羅去遠ニ字ブ玄宗のゆら  
成ストイリ毛ニ夜帯リシ跡トリ全ソカリクフ不成其教  
青身メ羅時ニ極ラ言ラ陛下術全善ツラ又事成天下ヲ平  
榜ルカ如ニ思ヒナシ玉ハス道術以タリセト成玉故ニ  
甲申ハ必天子ノラシテ懐中ニ人オナツカシク天子ノ  
云玄宗怒ラ罵リ玉羅ツイニ走テ柱中入ニ言ラハナツ  
ツリトシテ帝イ多ク怒ラ其柱ヲ破ルム又石中有大言上  
其中ニ長弁一寸アリ見則碎テナク五ト其石中ニ悉ク  
形有帝ヲシテ是ラ謝ヒタス一息復見ススニケリ此等皆  
他所ノ法形也

元圃程公鹏舉ト云志宋系孫右トリコ成テ興元ノ版  
張万戸ト云志亦ニ奴ト成此奴ニ下女ムテ事トニ三日  
史ニ向ヒ君カ形見ニシク人後ニ在キ人所此何マラ  
ろ平ノ計ヲ成サヤイツテ人ト成ト云史是教我心ヲ見  
ナラト思故ラ既名ニ我主人ト怒ラ女ニムテツツ又三  
ろム愈敷又主人云云イカワラ何名モウリ可也此市人  
女行ニ偏テ穿袴ニ結ツ夫ハ半ク履一カテ涙ヲナシ泣  
必君相見ト此名ニ別其後史張万戸其年十八歳書  
人言如元天子四海一統ニテ時程鹏舉立身ニ大官ニ  
行者參知政事官ニ成程妻別ヨリ二十年其妻志儀有  
コトラ感ニ再取ナトコトモセカリキ是ニ彼孺ラニツ  
旧地ニ往ラ市人安ツツ又市人曰此女吾家奉公凡内  
其あり夜メリ毛ツニ夜シトヒタイニルコトモヨモ  
且又至志ワ中々托コナシ顔色ニ水又吾妻是愛ス  
如此心今城南巷中ニ住便モイソ中其地リ程タツ再ヒ





若此三册者名曰名言若夜行徑壁隙三皮ヲ其道フカク耳シヒク  
十八年ノソコ一カニカニ文ニシ  
智者ニ親念心ヲ見ル道有之ハ在ルノ方々ニケムリ立見ハ信ニテ  
其下ニ必火アラント見ル如ハ心ヲ入ル其火ハタキテハア  
鹿如也平々又必火ノ下見ル心ヲ入ルカラス以テ  
又及至ノ采ヲ去未身ヲ知トテ是ナリサハ且林ノ金魚ニ日本  
カウ夜ノフニ文ヲカコハシ糸子十カレ未成ニテ其ノ子  
玉ノリ稱ノ所ナリ夜ノ山ノ子々ニ立夜ハコニ又火ノケリナリ  
新テ中ノ年一法法一字モ不流系一枝花サテハケ大卑是  
有真大卑更此心不悟其能迦兼之志一人是悟少為玉  
有身其能不立文字教外別傳迦兼付屬玉是掛花  
微染破教自抄旨云此心在入教法云一吹風  
亮壹不成同序源如流執情頻呼少至一本在事  
但令探郎認得覺一此在事ハ一應ニ系女有探郎

二親ニシテ探郎トナキ一親更ニモ知他方ハ所付比女カ  
在事ニ公探郎物トモ之其後探郎友ト曰道ハ彼處行ニ  
公念ニ是モ親ノ名开ルナリ是亦在彼女探郎身カ知女玉  
ト云者女ヨヒ屏風ニテ探郎子ト云云女玉探郎子トモ有  
カキカカニ之探郎モ探郎トモカキカカニ思ハカキカカニ  
フカキカカニ之探郎モ探郎トモカキカカニ思ハカキカカニ  
以テ是見ル如ハ右モ探郎ニ進兼有ハ法カ卑少玉法解  
屏風探郎子ハ一代ノ聖教授者ナリト云ハ少玉モ屏風探郎子モ  
引毎廿六念悟探郎モ此法以テ悟ニ至テ或ハ念悟五親  
法讀ハ尚方丈上リ見ツカラ此法ハ無好之頓首ニテ則  
歸去能第ニカキ上ル法有同日若カハ是能者所養ニ尚  
少玉ハ五祖此法ヲ念悟ニ法ラ云云ハ悟ニ至上極上知ニ  
羅漢多クモサカカカ下九人申ケ及カカカ互考道ニ  
三子アツハシテ子平生此考考考信心出悟ニカ

寶鑑摩羅經曰舍衛國毘村落那村去路地云子三  
羅云年少以其父三十二歲力鬼且是大人相  
圓滿之智慧聰敏之善論說久又勝於三十二在路地云四章  
陀典之通達又羅羅是隨之學久或時師國王用之留之  
家者云師婦此羅羅力善由憐慈起前之近之夜  
川一羅羅即師成身成母如向之不善之行十ヤハ  
内心三ハチクタイテ去ル其心トチル恨ミ自ルヲ以テ而ラ挫破リ  
ナリヲ以テ足ラ子キ住居処一夫昂去語ヲ曰女王臣一赴キテ後  
一羅羅我ニ不良意有哉是隨之如此面キスツキ足ラ子キナリ  
夫曰一羅羅其妙生時奇特瑞相有智慧今利根之道修心  
出過地之者之那之而一羅羅之教日汝千人殺神在持リハ  
天生也一羅羅師教ヲ為ト退師千人殺サ一人指ラトリ  
為首冠リテ依テ功有殺メ賢ト之譽揚テ羅羅ヲ翻メ指賢愛  
ト云是故ナリ大カ斂術之旨有二人其面向テ者各恐テ道行

今希國民大ニ憂ラ被斯匿王奉聞之國內人頭大蟻有テ  
民害スコト各敷之是ラ退治ニ玉ハスハ必害ルモト可成王是憂  
軍發伐之斂術ニ妙ナリ軍兵多伐ラ陣一比丘ノ多同テ佛  
白ス佛壽テ往化之及セト教之草ナリ牛羊牧之佛見玉見ラ  
佛申伴玉ヲ至シ衣カ大賊有テ害又時一羅羅九百九人ニ及  
今一人信其母説テ往之ト上テ一羅羅曰我カ又今一人關佛曰  
母害之生天因之何母愛マテラカレヲ弟カヤ斂術ヲ母ラ殺サト  
佛即大光の放テラニ玉一羅羅テ曰是大王我ラ伐テ各メ兵ハ  
軍兵事那スヤ母曰是天日月使光の如ク之示軍兵事那之是也  
ナラト一羅羅ニ佛者ヲ問テ曰我師常言若汝ハ害メ天恩得ヌトキハ  
必天生即母ヲ放シ捨テ佛向佛相好見光の龜々トメ金山如佛  
即後日ニ退マテ去リモテ一羅羅奔リ追フニ及又附カス一羅羅友ヲ揚テ曰  
他々大カ門降斂王太子我是一羅羅之今一指ヲ授セリ佛而  
二百七十七偈以テ言テ住々譽揚テ當降戒任至シ我是  
等正受之一生際ニ位實際ニ位各作際ニ位下不為テ梵音

文  
遇迷發心集云或以鎮鎮隨三途八難之惡趣惡趣所得若患而  
既失發心謀

因之變深坑投于牛舍于佛祀佛即善事十言發落于  
沙門成法眼得得于阿羅漢果果此亦為人度出  
冥祥記云魏在子宋代梁郡郡云其人人之深善想本心而  
名海業業于修子子之曰淺經經久忘佛佛之之其善名  
有子信信舍子子病卧卧久去婦婦言言其善名善名  
備備之之七日日出出之之息息慈慈難難之之額額也也常常如如之之坐坐日日常常  
在在量量壽壽之之演演之之其其声声和和調調之之坐坐日日常常  
淨淨土土性性法法入入而而淨淨土土在在之之見見之之父父上上見見之之如如池池中中蓮蓮花花  
大華華有有先先采采之之必必當當立立其其中中生生之之唯唯思思之之云云其其母母之之獨獨  
淨淨華華不不生生此此華華告告名名之之為為之之佛佛之之亦亦息息之之眼眼用用母母是  
引引信信心心名名佛佛又

鎮鎮之之常常下下之之如如三三途途之之火火途途謂謂地地獄獄血血塗塗謂謂畜畜生生刀刀塗塗謂謂  
餓餓鬼鬼八八難難三三惡惡趣趣其其列列長長壽壽夫夫古古智智辨辨聰聰佛佛前前佛佛後後諸諸根  
不不見見之之此此八八難難生生若若示示其其異異有有下下雖雖共共二二佛佛法法器器形形之之此此難難處處云  
其中中三三惡惡趣趣一一向向若若三三途途之之北北鬱鬱單單劫劫之之壽壽一一千千歲歲中中知  
每每只只着着示示法法修修之之張張壽壽文文也也只只示示四四種種各各想想矣矣之之必必想想起起之之  
五百百丈丈却却中中水水下下魚魚蝦蝦如如土土底底之之蟻蟻虫虫之之似似過過之之見見佛佛之之法法信信每  
色色也也智智辨辨聰聰之之在在之之邪邪智智之之聰聰利利之之義義在在正正法法信信每  
佛佛之之出出興興以以前前佛佛滅滅法法同同法法得得益益取取藥藥諸諸根根不不見見之之設設中  
同同生生之之色色業業障障章章故故或或障障之之言言成成瘡瘡瘡瘡法法過過之之益益之之同同三  
途途八八難難中中有有何何別別之之與與中中各各八八難難中中三三途途之之故故信信之之教教之  
亦亦三三途途八八難難即即惡惡趣趣之之故故持持業業教教之

新設華台曰在摩竭提阿蘭若法菩提場中始成正覺又  
舊說曰寂滅道場云是得道場之在米穀春有解脫  
必場下云煩惱糠治之法性米之顯所以也

華陽國志曰蜀成都西域故錦官地此地人錦織業  
蜀江流之激是濯則錦色五絲鮮之為他處江入濯者ハ  
尔之此故蜀水ヲ濯錦流ト名ク其流ハ蜀江錦ト云  
。章服儀曰條堤之相事也田疇畦貯水而養嘉茹苧登  
服此衣一生功徳又田服ト云

大論云譬言ハ田舎山島人砂塩ヲ知ラズ或ル人此ヲ招キ富強  
種々菜菔中酒熟甘美之味ニ答人問テ曰何ヲ以  
此旨味如此美キ善曰此味ハヨク酒塩用テ以能知此美  
田舎人即塩ヲ取リテ口ニ滿テ食鹹若ク咽テ傷ハ胸向テ大  
惱ム而メ曰汝何ヲ以カ塩能美味作スト云ヤ此人責メテ曰汝  
癡鈍ノ人ナリ是食中ニ塩ヲ用フト云フハ善哉曰量ハナク  
多ク又其中ヲ得テ而メ美キト至智人空解脫門ヲ開テ  
功徳ヲ修セズ邪見隨メ善法断捨ス塩ヲ食フ者ノ如其

申道ヲ知ラズ

賢愚聖仁王王大論云罽國伽路設王舍城或救城首波  
罽奈國大王波路摩達至名四兵率メ山又獵フス師子  
嫁ス師子毒胎ニテ生子形盡リ人似唯其足ト班ナリ  
師子母能憶識之爾負テ王宮弟ル王亦思憶メ我見ト知  
收養テ其足ト班駁ナルヲ以テ字ツテ班足ト云漸ヤ長  
ナリ才智有テ心極ク大カ有テ是ニ尚ル志ナク父王崩ル班足  
位ニ即一日若天四路王常好テ肉ヲ食厨監トモ或ハ肉  
各外カテ求ル死ス少兒肥白ナル有テ地棄カレテ頭足ニナリ  
徒養業加テ養王舎其味ハ常倍ス厨監同具ナク自ス  
王曰今ヨリ常人肉ヲ饑ヨト是由テ月々國中死セル少兒求テ  
相養ス亦他少兒生カレテ法小民行々哭メ少兒亡ラト呼ハ  
展轉相養テ王所以ナリト知レ法臣人民三十恨ニ法國大王  
三十三言ハ班足人頭罽刹之我等是隨朝宗拜觀スヤ

ト云テ法官法至其心ヲ合謀ラ山中流捨ツ班足大怨怒ル  
法山鬼神界刹ニテ其王種ナラ以テ從テモリ華ヲ  
班足欲滅カシ頭ニ飛行自在神通力有然恨ラ以  
故法至搏捕山中縛既九百九十九人至ル千人ニ滿テ法  
鬼神四刹是殺屠テ食セ下之今一人求ム須陀須テ王  
ト云有仁慈深ク民ヲ救テ精進持戒ノ常實法ニ依ル一日法  
ノ妹女將國ニ去テ遠處ス城門ニ於テ道人ニ值フテ七日  
中供養セ下相約ス時ニ班足王空中ヨリ飛來リテ王搏テ  
去法臣法女國中男女悲痛惶怖ス既ニ山中住処ニ至  
九百九十九人中ニ置リ須陀須テ王大悲啼班足王曰汝  
何啼子甚婦女ニ似タヤト須テ王答曰我年惜ニ瓦ヲ  
恐テ哭泣スルニ由ス今躬我城門於道人值我七日中供  
養セコトス我生ヨリ去汝セス此變ニ由リテ道人ヲ欺リ

罪見テラ恐テ啼死クハ高慈タテ七日暇ラタ玉ハ供養ラ  
遂必帰ラト班足曰而ラ汝還サレ事ララハ馬ノ心ニ志七日  
去ラ不サハ我汝ヲ取ト難カラス須テ王本國歸意如供  
養セ大子去テ國ヲ去リ法臣人民辭謝メ山中ニ趣リ國中  
男女悲涙恸哭頭ヲ叩キ去ララウラ留テ至必班足思王  
恐クテ下カシ鐵城ヲ築鐵室ヲ造程將奇兵ヲ備テ防カト  
須テ王傷ラ後テ曰實汝外一戒實汝外天梯實汝外大  
妄汝入地獄我今守實汝一寧棄身壽第一心各有悔  
恨云テ山中到ル班足感白汝信志ニスル實大人ナリ此  
七日供養山道人何事ヲカ教ルト順テ王曰形各常主神  
各常主形神尚離空有國耶感志必喜三百界皆自  
尔王教テ班足王ヲ洗同心意開解須摩王乃九百九十九  
人王教テ故帰テ王其救故王救城云云矣

。設我佛國中其不取正覺俱舍  
日大德法救諸如來身力在途  
志應不能折每造心力  
那羅延<sup>レ</sup>汝<sup>レ</sup>力云又汝<sup>レ</sup>由<sup>レ</sup>那羅延<sup>レ</sup>力或節々  
中<sup>レ</sup>金剛<sup>レ</sup>折<sup>レ</sup>力云及但舍頌曰自身那羅延<sup>レ</sup>力或節々  
皆然<sup>レ</sup>受<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>觸<sup>レ</sup>力勝<sup>レ</sup>論曰凡象香<sup>レ</sup>及  
摩訶<sup>レ</sup>諾健那<sup>レ</sup>鉢<sup>レ</sup>塞<sup>レ</sup>捷<sup>レ</sup>捷<sup>レ</sup>。伐<sup>レ</sup>浪<sup>レ</sup>伽<sup>レ</sup>。遮<sup>レ</sup>鞞<sup>レ</sup>那<sup>レ</sup>。那  
是<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>頭<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>對<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>戰<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>鐵<sup>レ</sup>甲<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>酒<sup>レ</sup>飲<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>  
投<sup>レ</sup>擲<sup>レ</sup>踏<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>衣<sup>レ</sup>備<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>香<sup>レ</sup>象<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>香<sup>レ</sup>醉<sup>レ</sup>山<sup>レ</sup>立<sup>レ</sup>座<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>  
太<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>已<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>倍<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>護<sup>レ</sup>那<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>露<sup>レ</sup>那<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>  
神<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>香<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>倍<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>鉢<sup>レ</sup>塞<sup>レ</sup>捷<sup>レ</sup>捷<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>湯<sup>レ</sup>蘊<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>露<sup>レ</sup>那<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>  
十<sup>レ</sup>倍<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>伐<sup>レ</sup>浪<sup>レ</sup>伽<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>妙<sup>レ</sup>支<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>湯<sup>レ</sup>蘊<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>倍<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>遮<sup>レ</sup>鞞<sup>レ</sup>羅<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>

執持神妙支神十倍力那羅延是天子或密迹金剛力士  
云執持神十倍力有

。漢書本紀云高祖楚項羽天下爭テ七十餘度軍兩陣軍  
兵<sup>レ</sup>衣<sup>レ</sup>冑<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>負<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>奉<sup>レ</sup>治<sup>レ</sup>國<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>怒<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>攻<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>ス  
高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>百<sup>レ</sup>騎<sup>レ</sup>從<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>鴻<sup>レ</sup>門<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>往<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>舍<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>私<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>旨<sup>レ</sup>陳<sup>レ</sup>涉  
門<sup>レ</sup>六<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>兵<sup>レ</sup>百<sup>レ</sup>餘<sup>レ</sup>騎<sup>レ</sup>香<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>樊<sup>レ</sup>噲<sup>レ</sup>皆<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>張<sup>レ</sup>良<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>ニ  
高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>從<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>即<sup>レ</sup>危<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>回<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>酒<sup>レ</sup>勸<sup>レ</sup>公<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>臣<sup>レ</sup>范<sup>レ</sup>增<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>  
高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>曰<sup>レ</sup>今<sup>レ</sup>沛<sup>レ</sup>公<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>歸<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>里<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>虎<sup>レ</sup>放<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>必<sup>レ</sup>害<sup>レ</sup>ラ  
高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>曰<sup>レ</sup>君<sup>レ</sup>天<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>玉<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>叶<sup>レ</sup>フ<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>即<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>衣<sup>レ</sup>冑<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>  
汝<sup>レ</sup>沛<sup>レ</sup>公<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>メ<sup>レ</sup>壽<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>劍<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>拔<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>舞<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>間<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>亞<sup>レ</sup>父<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>  
兵<sup>レ</sup>衣<sup>レ</sup>冑<sup>レ</sup>我<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>亦<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>張<sup>レ</sup>良<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>立<sup>レ</sup>隔<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>而<sup>レ</sup>沛<sup>レ</sup>公<sup>レ</sup>刺<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>サ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>  
高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>曰<sup>レ</sup>沛<sup>レ</sup>公<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>拔<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>立<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>亞<sup>レ</sup>父<sup>レ</sup>范<sup>レ</sup>增<sup>レ</sup>亦<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>  
云<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>項<sup>レ</sup>羽<sup>レ</sup>兵<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>雖<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>今<sup>レ</sup>策<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>サ<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>悽<sup>レ</sup>同<sup>レ</sup>  
立<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>拔<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>動<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>紀<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>屠<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>討<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>樂<sup>レ</sup>音<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>急<sup>レ</sup>

樊哙擊內入項羽聽之立背流血項羽是見劍以五百餘騎  
年之百之何志之同張良曰是沛公臣樊哙之項羽曰  
同及我勇猛兵之函勸自下孟酒疑之肩之上樊哙曰  
飲之井之口及之口上置之接之切食之白臣死之也  
之危也上之口祖廟性之イメ用道ヨリ彌上陳之歸此  
日樊哙之祖廟ヨリカラス

大聖云善之方便顯示三乘於此中下而現滅度景興  
淨土論曰正直曰外也曰便依正直放生憐愍一切眾生心  
依外已故遠離供養恭敬致自身心故現字即詭義一乘  
分別三乘所以究竟大道之因今此字以三車四  
車中何之轍傷隨之法華至譬喻呂長志有其及火  
燃之燄燄二揚之而彼長志法子更其知又遊之

度各文即方便以羊鹿牛三車作法子攝キ是載門外引  
亦示宝莊之大白牛車二移載之安穩處到云安  
火三界之若火也法子之衆生若乃知又放逸之長志  
教之是三界之慈文成之三車之三乘權教喻大白牛車一實法  
華佛乘喻安穩處之寂光也又光宅寺雲法師已四車  
捷徑究竟其甚深一乘之觀佛乘理  
五行大教曰有百物三百六十其中以風凰毛生物三百六十其中其  
張鑄百物三百六十法司甲有三百六十龜司標十物三百六十  
十人用之又畜生三牲有魚六千六百種鳥三千五百  
百種獸二千二百種正法念經曰經教石門之千億又二千億  
億之生物下法也

亦小カカリ具前之三五百國其各一千國此若界日日有山川天運等  
大小海水各有名者千明之千里羽長千里合之千里此等南極見行  
道也其教之元下也

石谷詩集注

山谷詩集注云有因帳中香以爲傲蝎者戲用前韵

海上有人逐臭天生鼻孔司南但仰香嚴本寂不必叢林

偏參楞公至香公童子曰師言見諸比丘燒沉水香

象寂然來入鼻中我觀此氣非木非空此煙此火去在何處

來各所從由起意銷發明元偏如東印我得香公身一塵象

儂咸妙香密因我從香公得阿羅漢祖庭事竟曰梵語

貧婆此云叢林大命云聲言如大樹取香是名爲林法比丘

和合故僧取香所得名叢林傳燈錄云比丘傳香峯人曰

備頭陀何不編參去師曰達人不來東土二祖不徂由天雪

長水曰坐禪用心如何指示耶曰從古如坐禪住坐長水曰

善然以坐禪爲等者可修今用道人一爲作麼僧各對却同

石平老人八多齋有指示長水答云有善無誰信之

僧曰其指示如何答云坐禪我受要上僧曰受何我耶

答受佛後之我受會耶善者也具說破也僧每語時

曰叔佛後之我受會耶善者也具說破也僧每語時

長水先問究竟後可笑可謔可謔未究竟甚不可上之

其傍於此大知非古語云臨渴掘井何益插月未早元日相報也

○古語云臨渴掘井何益愚徒熱增乞乞是道覺悟之窮作故惡安

○弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之

弟語在厄篇云曾子弊衣而耕而耕於魯君自致之



因伴云云以牛羊眼句評量人彼善是恩智等如菓可  
評量人

○毗沙門天王太子二尊於天申南山律所語曰靈山我迦寄在  
妙法藥王一品說其執行一却但今日弘至於久遠實佛  
滅後講法華云云于似如也賢却三佛如也同今日深  
會佛自諫述論也

○三寶感通錄云天竺鷄頭寺五通并常唱念佛每日出  
河漱口洗手其里川下有村有鷄被咽并嗽口水忽免却之  
主哀之理上經日墳上一莖之蓮生人悉妙然其并夜  
羞一人天童子頭戴鷄頭來并并奇向之彼答曰  
我是初利天愛之并問云何然我答云謝恩向何恩報  
答云我前生熟之并誦佛名口水咽之佛光觸柔軟之乳也

空成故觸之忽得死生初利是則大恩之故來并云以此  
緣彼天童來也建寺故因名曰鷄頭摩寺五通并供  
亦老界請阿鉢池以云娑婆愛生我生淨土各佛形像請  
盤降許佛言為目前去尋當現彼及并還聖儀已至  
一佛五十并各坐華在樹葉下一五通并取菓所在圖恩

流布云  
撰集抄云白川多三活者トナク有以此款ノ處方ヲ云ナク合押トラレテ後  
カマナリ估ノルニニ祇園ニ七日祭ヲ下リ終トナリケル七日ト申ニ  
御殿ノ御座ヲ固カシテヤ作ラレシハ大明神ノ御座ニシテ  
イフキヲキナラリ估ルニ兼テキハカシテ長キヨクハシラシ  
佛座定ナリ打響キ又比所ニツキツク葉之ハ振ケモ又ニハカシキ  
此石ノ名入一人外ニ有三人又ニ白骨トナリ悦モカシキ有ナ  
キモハカシキアリ合掌佛座及喜喜子ウラカス石ノ中ニ思トメテ  
口口ニモナカシキ長草ニシテ新カサラシキハカサト思テハヤ子月  
外ラ切テ喜喜子ニモカシキトモイハス白川名ニシテナト振アツキカスナトナリ

ニハシラぬ言念佛ヲ申候し此身ヲシムニヤラサリケレハタヒキノカヨ  
シラ路リトスヘト思ヒラ里ニホラホラフハサモ佛ヲス共ニセナリ念仏  
甲佛リケレ月教ニケレ畫子モホラテは不ニ身佛リテアテ魚  
モ玉スエイヨク念佛ヲシ路リケレ然ニ処方押ニケレ人日星ヲキニテ  
候様ヤカリホトニテハ思サリケリケレモ長石ノヤモコソ思ヒケレキニ  
トテ押タケレ処ラハナノミノ心ヲラセ人ノ心方ニトラセヤカラホ  
タタ申自川ノ底ニイタリニケレトスニ中ノ聖モアハレ三思ヲヨト  
ナリ星ニテモホラモニ念佛ニ玉トイハレ不ニ佛ヲコウ中ノ定ナラメ  
日声念佛ニ玉リ夜ヲ寐ス老ノ跡是ニハアハトモテラナシカス  
人ノ多ク佛リケリケリケレニカセト甲ニ月十四日ニ眠先及心知ニ  
ケリケレ後及心カノ底セレ上人ノヒガラニクニテ眠レトナリ  
死玉ノ人毎身ノケレ路ヲフニケリ  
左書云中比都内念佛候有 御テラモキマニ 建蓮ナトウキキツ  
人ホ入テおまを後レ或家ニヨヒ 惟ニテ 妙カセケレケレ此後佛志有

難佛ノ迷ヲキナレテ佛ニサ相おラフ有ニカケ佛ニハハイトラフニキ  
ケレ返一ニホラニ建蓮ナトスラ路フヘキモ佛ノサセ玉ト返ニケレ  
重ハカナリヤニニケリ 念知モ中ノ佛也之ニ念念也又之ニ又ニ  
在リテトラス念佛申一御文ナト論テ他人或所下ニト云聖法ニ  
有りトキ聖對るニ法文一言兼ノ路セト 慈ニ字ニ佛ニハ何ニ  
カホノ花ノサキ而後ノヲキニケリケレカヲリケレ風ノフキテ念ノ佛  
ケレ見多打後クニニテ 見ルヤイカニアタニモサケル權ノ範ニサキタ  
是コフ法文ヨトテおモ後ニイッテササス之行ニケレ  
高初院ノ山面仙名各中尉範情ト云志知女昔ヨリ哥乃モラアトハ  
野月ニ心ヲ憐メタリ生年十九五ニテ在常 觀峰城野魚ニカ入テ貴聖  
相おあ道老ノ身ト成ニキ中ニ云聖人云惜哉此人モ背ヲ結事筆カ  
ヲ觀奉ト云ケレニ範法詠云 右ヲ捨ル人ハ三下ニ捨ルカハ捨又人  
捨ト見ハ愛ニ聖身ヲ刹法若クお行ト甲ケレ日比ノソミニ名必志  
正ニ是者也山ニ入山籠ノ行煙ケレ冬モ春 櫻ケレ霞峰 雲山嶽ニ  
ヒラ 峯ノ 名也山 應おト思身ヲ花ナリト人ヤ佛ラニ又大峰  
今 嶽 山 嶽 幽 谷ノ月ヲ見テ 保キ山ニスニケレ月ヲ見サリセニ思お

在戒身十ラ之 其後伊勢来三年秋ニモ成又又今トシ  
ニ在亦惜輩多ヤリ花下ノ月、客、月前一夜友思君テ  
哀ナリ 廻リテ雲井ノヨリニ成ヌ月ニ行君コ忘ナ  
其ヨリ車同如ク廻リシ幡テ路ニ安リ人屋在キ地系ラ布  
入日已ニ又ナリあり宿ヲ尋ニ松一村ノ隈尖野柴ヲ有内ニ白  
髪老翁一人望メ月ニウラケリあり立寄宿借ハ草ノ底  
草枕若衣心ヲ傷シル折首一村松風ハケリニテ十月秋月  
寒あり一首ヲヨミテ主ノ友人ニ授ケル 山里ハイコソ子ラレ子  
疎夜ヲ松吹風ニシト口カレテ 者翁因テ不レ敢 山里公  
コソ子ラレレ寝コソ松吹風モラト口カスラメ ヨシ捨テヌレあり  
惟思ケルニ曉風吹客後一夜月照人愁一夜スレハ又レニモ  
や又店モナシあり夜キノ里海ヲ人ニ向ニ其尚ノニ無人也  
彼松系ノ人九ノ墓処ニ捨テ人ノ人ニシハニテ下日才也ノ本  
望滿足ニスレト建久九月十五日音東山雙林寺住生

大論十八日著落テ河サリ行精進者ハ四儀不廢寧口失  
自命不廢道業 辟言ハ如失火 瓶水以投之唯存滅火  
不精執法行ハ如舍怖 如失身 如永執心 如盛水 身心  
精進 如命執掛是故ニ精進ハ以心為本以身為助而假念  
言ハ并ノ奈意其度大舟ヲ成執也 欲ニ保在 下ノ空ヲ使テ  
退慮亦在施也 彼新其瓶皮ヲ使テ退慮ニ成 每量  
煩悩轉メオナシ生及反メヨシ却テ積在池ニ瓶ト皮ト心トナ  
退ノ思ス是之  
神皇氏國民ノ病憐業 治欲ス百中味水白泉耳若ナラ神  
國運涼ヲコノム終ニ本草院ニ此ヲテニ務若救彼法也 我  
行己ニ思カ精進ヲ法ニ逼惱ヲ受捨執身命ノ欲ステ乃至忘  
悔ナリ也 自行海行ス

△大和姫元記 在心御極記 七流古事 神祇齋堂七法社

廻 五字治橋界記 寫字 釘四千三百廿二 板敷云云

○古語自我身ヲ助ト思ハ邪見當受相無能ハ當才相有ル  
昔洛陽外典也字人有我子ヲ勝木ニテ文ヲ習ハ公我身出  
仕ル所子一人在る能カシクシテ縋ニテ梁リニ釣リ上文ヲ誦  
父他日有るニ繼母是ラ哀ニテ抱下メ送公父申言ハ  
本如之子母ノ情度公女子成長ニテ日比精右ニ依テ  
遂ニ家業官ニ上ル其能知ル所六引替ラ恨公父ノ誠メモ  
思トナリ嬉シカリシ母情ハアタト成ル

西史入哥ニイキテ身ヲ送上宿サスニ念佛ヲ申ス申此要ヤカラシ

○生瓦散泥ノ煩惱ヲ除ク是 五郎ニ郢匠ニ定ラ公私有郢トノ郢人  
リテ壁隆匠ハ匠石ト云番匠 郢人カヌリ上子鼻崎ニ上

付其勢ニ如郢人ニ通曰芥以此勢成削ル 郢人カヌリ  
ヨリ拵テ斧ノ如クニ匠ヨリ削 鼻毛カモ損セス土毛亦又削テ  
新造ニ就地ニテ之辭言

銅餅子西面ニシテ音下リ一念佛者ニ依テ此知生

○慈恵仁ナリ善好教曰萃實周然内 出是則法藏  
因深シク自然有 致スト宣リ

○前漢ニ朱雲ト云人有成帝仕張禹ト云有是成帝ノ師  
近ニ多威有能朱是思ニ張ヲキラト奏帝大ニイカリ  
朱ヲノ殿ノ檻ニシテツケニ依ニ檻ヲクテ此ニ率履忘ト云人  
是ニ至テ中ニ差ス朱ユルル果ヨリ今イニ此ルヲ檻ト云

○前漢成元帝五廉元京ト云志者古有ヨリ梁丘氏カ易ヲ  
通ス帝法求ノ易志ヲ下テ五廉ト曰夫ヲ論セシムルニ皆  
云ラセラル朱左人イニ五廉ヲ云ラセシムルニ五廉岳ヲ







性非正並の故、諸角等、故、別、一、子、如、を、あ、り、と、ら、る、り、ケ、り、と、多、く、之、を、  
と、名、を、と、る、水、神、多、り、た、し、故、あ、り、身、部、の、名、を、こ、ヨ、ウ、子、女、り、と、て、ゆ、え、  
百、り、と、一、二、年、の、少、蛇、を、之、の、死、を、り、故、此、水、神、の、あ、り、を、廣、村、里、に、  
早、い、に、さ、す、ま、じ、き、り、  
。此、為、キ、テ、此、後、天、性、龍、ヲ、也、常、年、を、年、の、名、を、之、一、年、を、あ、り、故、御、  
て、り、あ、り、あ、し、ヤ、ラ、ス、を、自、り、猫、の、守、を、も、と、も、子、女、也、二、或、日、住、信、秘、龍、  
海、白、ケ、サ、一、テ、ウ、岸、ノ、ク、ロ、シ、テ、以、外、念、恐、り、初、年、を、之、の、終、人、の、あ、り、カ、  
あ、り、と、し、た、お、り、故、之、を、夫、分、を、あ、り、と、す、又、川、平、抄、ウ、用、の、と、テ、此、日、朝、十、  
二、進、の、あ、り、と、中、年、を、カ、ワ、ラ、ケ、リ、ク、リ、ウ、之、を、名、を、三、中、油、木、ト、水、は、三、リ、  
カ、ワ、ラ、ケ、水、に、三、ウ、こ、い、ん、カ、故、三、七、八、日、成、此、床、上、に、一、束、ヲ、ア、テ、  
集、成、の、い、を、キ、ア、ル、イ、指、ケ、又、ツ、リ、又、ツ、リ、テ、は、カ、ワ、ラ、ケ、ノ、三、ノ、ツ、イ、ニ、川、  
岸、の、名、を、海、水、向、す、ウ、と、二、進、ツ、カ、カ、ワ、ラ、ケ、ノ、中、又、ハ、イ、リ、四、は、水、ニ、ヒ、タ、  
故、上、虎、の、名、ヲ、い、南、の、中、ニ、テ、ウ、と、故、合、八、十、二、進、海、八、十、也、三、ノ、名、は、三、  
右、故、ヲ、ア、メ、り、を、名、を、之、を、之、を、各、ノ、二、進、の、名、を、之、を、之、を、之、を、  
故、上、ア、リ、ラ、ヒ、メ、ニ、ウ、リ、足、ア、ト、ツ、ウ、ラ、ニ、三、枯、水、ニ、ヒ、タ、セ、リ、是、又、三、進、の、  
今、二、進、ノ、ヒ、コ、リ、也、一、是、信、云、海、火、ノ、名、を、成、此、故、也、二、三、進、の、名、  
故、上、ノ、海、又、夫、が、又、中、年、を、ア、リ、と、す、

又、此、の、思、其、名、を、集、成、法、(海、ノ、三、ロ、レ、カ、ル、也、天、下、又、上、セ、ヒ、各、其、中、ニ、知、  
五、人、ハ、云、ふ、故、多、ク、之、ヲ、イ、フ、事、ル、日、此、ヨ、ウ、ク、カ、シ、ム、テ、年、ニ、高、ク、勤、也、又、其、身、  
一、進、ノ、り、信、信、云、あ、り、虎、山、本、知、知、の、名、を、道、名、を、集、成、也、之、定、上、ノ、イ、ト、  
イ、レ、リ、ス、又、ル、五、ト、リ、ラ、ト、ウ、キ、キ、が、一、也、の、名、を、下、ノ、年、集、成、人、ノ、カ、レ、也、道、  
七、由、也、名、を、集、成、ト、イ、フ、キ、海、を、之、を、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
イ、三、進、ノ、り、を、自、信、云、あ、り、故、上、ノ、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
故、上、ト、リ、ト、リ、ハ、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
サ、ラ、ス、又、ニ、テ、三、ノ、名、を、集、成、の、名、を、日、集、成、ナ、シ、又、五、ト、リ、ウ、キ、キ、故、三、  
ウ、キ、キ、セ、也、名、一、進、ヲ、テ、ラ、シ、ル、名、を、集、成、ア、リ、サ、テ、リ、名、を、集、成、シ、テ、  
二、ハ、ウ、リ、日、集、成、ヲ、メ、ウ、ラ、シ、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
此、ハ、カ、ツ、テ、ウ、キ、カ、ス、也、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
あ、り、ト、リ、又、ツ、ル、た、く、五、進、集、成、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
中、ノ、山、休、集、成、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
ラ、シ、ラ、海、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
密、信、有、り、と、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、  
新、申、ト、名、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、之、を、



下り止時道存多山依二六ラセナシ我ら安五下ク下ラセタルノ意ハ  
ハリニラヒテハ殺害スルコト痛クセメラシテ山依申ケルハツタカカ知  
各安ラトラセシテラウメクシメヤメ謀由外中ノ山依指陳トナリ  
因キトウリ且邪ニリ法多身又心でナラコト欲又信云云城内ニ  
女君ニサハリ申セテ老ナシハ山依日向子ヲ料取人安者云云  
カリテラヒ後スノ破ラテ井上ハサミスルセリニテ五下ク下ラセ我  
内ニカノスラケサヤハお島極中一我道ワキアラコノケナリ  
こラシイマツラミナリハ以て白状セシカハ道中此悟申分は  
其名ニコレニラ毎カナシキトウセシ云云申カトラカハ先ニ  
蜘蛛ノアミニ凡依トヒリシ結リモナシ又得ニ獲ハヨリウ  
コトニテ平ニテ又見ヨリ道中多譯保キナリノケサヤラ  
者ナリニ必ムモラシケリ

○人皇五平五文法皇白皇太子コレヲ新王コレト稱シテ  
常七是心ツクテ玉内々申ケルナシコレヲ玉内心ナリ  
此の内ニテラフハヨリ有ト見名ニハ日中一ノケサヤラ

三十四長セ人ナカ有申ケルハヨシラ女御ヲ以て其オソ男  
ナキテ是等志願ノ星御ナカニニテ山依道中三ノケサヤ  
真社便正ルニ又也ナリ其山依正使有申ケルハ各  
おカケリニテ案テ案内因ツカハ如見知ノ名ナリ存  
ナカナリナキナリ存ラハハツクトナカシテ一ニヨリ  
クハハツ川如時ウツシ又ニテ名ケルニテナリトナカ  
南座ニテ又メナリナリトナカシテハ各ナリナカシ  
各ナラ由由ニテ有テ名ケルナリ各ナリモフニテナ  
其親ハ少中里ニ川コモリ少中親至ト見ナリニテ  
○年安キ政國任人長井ノサヤ者不亮サ子也七平案  
シキヒミシテトヨヒハ十八ナリナカシテナラシム  
任人テツクテ老老老老老老老老老老老老老老老  
御ナキテ若シト云ナリ申ケルハ由ラキテナカシ  
本多クハ見名ナリトクナリナラ水モナリ又ナカシ  
上ノ由申ハ若ラント申ケルニテナリ又申ケルハ  
本多クハ見名ナリトクナリナラ水モナリ又ナカシ

本多クハ見名ナリトクナリナラ水モナリ又ナカシ  
上ノ由申ハ若ラント申ケルニテナリ又申ケルハ  
本多クハ見名ナリトクナリナラ水モナリ又ナカシ  
上ノ由申ハ若ラント申ケルニテナリ又申ケルハ  
本多クハ見名ナリトクナリナラ水モナリ又ナカシ  
上ノ由申ハ若ラント申ケルニテナリ又申ケルハ  
本多クハ見名ナリトクナリナラ水モナリ又ナカシ

七年多クムより老志トスレハヒヒク思フ何志首ナラセトヤあやむるナラシ  
アハ昔奇を別あるニヤコレ他まニ子如月ニ見えカ

ヒ右左日傍るにりウラヒテモナリモト九リアラセテ目見テハラトナキ  
アヤハヤナキニテハト申ヒヒケノ思キ向玉ヒケハヒロサレ其クヨ  
カ子ク申出とを思志美奈とニラナトラモロキ義場ニカコソメテ  
ルマフ志モホモレトモ思トカ子ク申ハカ考思シラレナリ後世ハ志クワ多  
後成々ミコウウラヒリ五代系  
考多志美奈文 傳ニラフル思サラ子トイタウニリシラフニモ油ニテナリ

ヒ右左日傍るにりウラヒテモナリモト九リアラセテ目見テハラトナキ  
アヤハヤナキニテハト申ヒヒケノ思キ向玉ヒケハヒロサレ其クヨ  
カ子ク申出とを思志美奈とニラナトラモロキ義場ニカコソメテ  
ルマフ志モホモレトモ思トカ子ク申ハカ考思シラレナリ後世ハ志クワ多  
後成々ミコウウラヒリ五代系  
考多志美奈文 傳ニラフル思サラ子トイタウニリシラフニモ油ニテナリ

○後孝平帝代王莽ト云エ有佐ハ其ラト漢ノメウラヒ海島千五百次申ト  
後云字云申々ニナキ 刑ニテトナトラ地ト國作ハヨノ申包其地ニ  
ハラミシ七月既女ニスル云 朱攸お資其書ト云朱者是ノセト生下  
皆子者ニテ如諸人ニ名ハ久保山コメ 既長ル者ヲ哥地志其哥ニ云  
遠甲上猪云字ハ中今有王莽帝位ト云テ下シカハキナリト下  
海々ニ人布ヨラ切同音ラタケリ 帝アヤシ玉浦々島九行九見玉フ  
哥如依王位朱玉此ニ年ヲシテハカヲトアラハニテ付ス

○後白河院ノ至七十年代此年迄ニハ五月上旬ヨリ 葛ケケ付ハシテリケ群ク  
病玉法古法山形法宮跡を遷治天下カウトウ有ケ是後遷之既  
改ト云有是ハ後院志ナリ我園善徳也 教子ニ書付改テウリ 徳也 既改  
五代志院ノ金室有古跡云 其ノ中ニ其持ナリ 或云天ヨリツクニテ  
水碓 志由云志不持ニハ是人ハ文珠化身ノ五ノ山ノ毛ト云 其蛇ハノモ久又天石  
厚志志者年々年地ニシテ天下毎取ラハ此傳也 教志志者子ニモウ時天  
ヨリ志志者申ト云モナリ 是至下ノ志志者志志者ト云モナリ 傳志者  
アリラニ有テ此ニ代志志地時一法ニ業ヲモレモ久ニ此ナリ 此志志者





○昔云彼後都山階存ノ魯云ナリニ在ラシク心保シテ更ニ存交ラフノ事ニ  
輪川ノヨリ居居諸位々凡相成帝帝佛所此年同名テ名おまに也年名  
ナリテナニシニ系ニケリカトモ猶中ニナラズ思ケル也ヤ秀山山内由也  
ニ大後都ニ成諸ケル輝ニ申リテ再ニニ輪川後事原ニ云キテ云初フ又ニキ  
ト奉ケル子子ニモシラセ又何地リモ各先ニケリ其後年終テ背子川後  
海有尼ハヤラシクヤナリ云キテ云シラモケケ後都如其月分ハ海ニヨリク又外  
海有尼多ニ去昔ナリ此佛ノ子ニ母ニシテモトラス出モ月カアラハ其念在  
ハカリラトナリ居玉ト背子此國ナラズニモセモ其後ニカキケルヤウニ云ニ  
里ノモトナリ云ニト云ケル此後都ヲ在ケテ再ニ

山白モレ後都ノ身コヲ喜ナリ秋ハラシクハ同人ニ云ナシ長壽慈心

○後賢國成郡司ノモトニヤシテ先法師ノ人ヤ仕路リテ至此及テ後指シモ  
何ニカハセム用事ナラト云後云男ニカワル事ナシ何ワナリモ仕ト云ナリハ  
馬ヲアツケカワセケルカテニ年ヲ終ル此後都國守イハカレ事有テ塚ノ  
内ヲラハル父祖文ヨリイツキ久ル如所領モ多ヤツモ教々他國ニ云ナリ年十  
ノカキキ方各使ケルモ亦依向事起ラ後此使自先ニ云ハル也上云ナリ  
何處モ年心中入ナラ叶スハ其時ニシテハ何方モラセメ此法師ヲ云ケル是ニテ  
上京ニ其時此國至ハ大謬處在ケル云至テ此使ニ亦カキケル事見ケテ

○至ニサニ入テ物申付ト云ニ此ニ集モラレモ此人ヲ見ケハラシトナリト升テマキテ教  
クテニ白門ヨリ是名テイル大和言イソキお名ニモテナシサワカレ拓事外ナリ  
此ニ云揚子秋玉傳キ者ナラト云此代佛工ニ玉ワレト云大和テ國工ニ玉男ハ傳  
使ハカキ多由也ト云イソキトモ各ニ云ル先ニ云ハル事ナリト云ナリト云ナリ  
○古云ニ筑紫上人云有ガハツクニ國住人傳心ニテハ田ヲ多持タルト云此  
五十年白地持タリ或時田んをニキリニ年者心カキ事也ト云モ不汝スラニ云  
カシラリカキ事ト云カキ事道ニテワヒカケ此モ曰カキ事ト云カキ事ト云  
連立ニ道守神ヲ思炊乃云ニ彼堂其月ニ降者カキ事ト云カキ事ト云カキ事  
則松障子ニ書付也又曰ヲ贈ホトニ其日取ケルカキ事ト云カキ事ト云カキ事  
キカキ事ト云久則見ケララケケケケカキ事ト云カキ事ト云カキ事ト云カキ事  
カキ事ト云上流法ニ玉傳守神ハ天台ノ明賢所圖梨此上人ハ年使有見ヨリト云  
カキ事ト云敏多昌ニケル白河流飯飯ニ玉依ラニモカキ事ト云カキ事ト云カキ事  
カキ事ト云我モ深著ト故アラヒ子々ニケケ負教モイヤナリ頃志モ殊深一人カキ  
地子伸室ヲモカスム家ノホトニ國カキ事ト云カキ事ト云カキ事ト云カキ事  
カキ事ト云ハニ尊ニ既又欲目以三聖道ニ障エモ以ケリ許鞠者ハ室尼ケハ深慈賦  
新也中ハ此カキ破器作地獄陸ケル事ナリト云毒蛇ヲ捨ルカキ道ノホト  
ニ推ニト云ナリト云カキ事

天王奪聖瑤瑤ト云使有阿耨米ニルリト云故各付ク其自ヤニル夜ヲキラ  
 キリテキレ布依依ニ宮和又中身ル如クカクシキテシク又成又人ノキ又ハ  
 亦下卧下ト云布成時大地ト云知大知志有甚知ノキニ夜所又時依  
 世文因未名并ル事ト云阿久此ヨリ人ト云ニムツリト云分以東ト云  
 亦由金在名ト云大内市技佛を如何念佛ト云世生ス云  
 三川聖ト云大江定基云三川守成元聖格タリト云各相果花ニホトモ  
 比聖死タリト云坊老入あふ久我及心宮實ラリト云コトコト元ノ  
 妻方一カ子ありト云ニ聖元ラあふ不我其有ト云ト云フウラニラフ  
 妻ヨリ横川上ト云信信子ト云阿久夜後大師生以テ圓通大師ト申  
 之世生る能る不名有テ夜早リ及後注ラリト云改法云可云  
 聖斗遙阿孤雲上聖卑斗也迦落日前聖上ト云ニホト下スリト云阿ラニ耳カモ  
 釈迦如來香衛國在ラ阿難見諸テ城邊ニ有女ト云是男ト云  
 道ニテ逢キルル毛ニ白クツ面ノコハミト云皮クハミテ身ニハキキテ  
 ナケル衣ヲキテト云カ行テ大ニ又ミキヒテテ息ム佛此ヲ先  
 シテ云云此ヲ見ルヤ此知大成宿善アリ年ノヲテテニテテテテテテテ

初行テ此是ラ祈テ云ハ舎衛國ノ中一長志トハ成テ出ル  
 為ニ初志カハ三ぬ大通ノ羅漢トハ成テ一法ニ其也阿時初ト云ハ  
 中ニ長志トナリ得脱ラズル所那意ノ聖トハ成テ一法ニ其也  
 此下ト云ハカハ三長志トナリ流果ヲ志ハ斯地意ノ聖トハナリ  
 十ニ思ニモノウリニ其成ラズルニテテ宿善ヲ持チテテテテテテテ  
 ニテツメナキト云テテテテテテ人ノ生ラ空スニテツメヤト云テ  
 我々ト云テ法華ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 三ノ徳ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 聖禪三昧ト云今自燃此書一阿自達彼書一示者メ不歡其不  
 覺死賊至一云云

夜善守ハ道縛ノ御子也然ア下其師ニ越テ定中ニテ見奉  
 覺醒ト云事ト云同ト云テテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 教父ト云テ捨テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 リテキカモカテトノ強ヒケレハ定ニテテテテテテテテテテテテテテテテ

加六芥ヲシタス事ニ似ルニ若ク辞ス事ト曰フ此ニツキテ國ヲ  
道障ニシテモケリトナムカリ云々此ハ木ヲ切ルニハカニ大成木トク  
ツリモタマヒナリ切レテ若ク切タラサト云事モ亦海ニ又ルレリテ  
申ニリテ此事ナキハハクモ必行貨ノ志深急スル故アラサル由ラ  
略ニナリ此書一述神ニカキラズ之ヲ行方同レシク

。近江國増翁ト云有見事一國事ニシテトクニ云國志ニシテ名物ト  
云年以テ食ヲ改見云々此ハヒラハヒラニシテ其能大和國大聖者  
後ニ此翁往生ス事由ニナリ結縁者ノ修業別ノ翁カ中居ニヤト  
ニナリカリテ夜ナト下何ナリ行ラカスルナラテ國ハモ更ニツトル事  
を聖何ナリ行ラカスルト同クハ翁冬ニ行を由答ラテ聖ヲニヤラ  
我ニコトハカハヒシス事由ラズニ此傳テワカトクニ年カリス事毎  
ト云其能翁云ク我誠ニ一ノ行有別ニシト云是也ウケルハ  
然ルモ若クニシラズヤリテ坊ニト云寒暑付テ寒熱地獄ノ事  
又如是法若クニシラフコトニハあつテオカシムキ味ニルレハ天井

靈ヲ觀シテ概ラリメス事又止也ヲ見傷ケルキ、カウハニキ概香ツキ  
此モ是何教ニカハラシ彼概系海ニヨラヒ知ラレテ増ライカニカ目  
おカラシト云此をカキテケラズト云クハ聖國深ラナカレキニヤラ  
合テ去ルニモ海ニ花ムラ觀セリモ知ラレテ理ラズニモ又此レノ  
業トナキナリ云々

。寶岐國深也事ト云モノ佛法ノ名ヲタニ知テ知ララズ人ヲコトス事外を  
任キモモキモラフツル或能將之海路ニラ人ノ佛法修業ニカキテ云々  
今身ニ云々何カハスル故人多キ事ト云同部修業云々佛法高ト云事  
事ん事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事  
便モラフクニナカラズ法ヲリクムラシテ誓ヲキテ事ト云事ト云事ト云  
有招フコトニ説キラス此昂云ヤウイトクニ事ト云事ト云事ト云事ト云  
ニ其件ノラフコトニサシク事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事  
イラズ略ニヤト云概ニカハシ心ヲオコシ玉ハハハハハハハハハハハハ  
此ト便ニ成ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云事ト云





在佛前蓮華地生ト云其多クナリ日ハフシテ年毎に浴シトキ  
未だヤシ又ホトニ照ラウチフキキ地あり各日見聞人ナクナシニカリ  
毎日以テラ浴母至外ナリ若キリウウト各飛月ハムキヨラカニ  
以詢云

南往南方 各垢を早し坐宝蓮華 成等正覚

或人道ニ見人ナリカ友知汝在ラ國ハ獨カ云ハ列ニ遊志カナカクニ  
ラヒシテトメニ三年メニミ宝鑿ヨリタル新有年ソカト云今人  
云其別ノ異邪人口中メナリテ云カラスト云是國ラカ其ラ佛并  
年ニラテハカナリ見至ラテ年一ツモヒニラテリ又成人於先ハ年  
翁有人云テ云モハヤ石修モテカワキ急佛門ニカクシテ老クニ  
レ戒テテノ病ナ有我ニ三年ニナリ此年ニ成テハ我急佛也云  
是るをヒキモ日年ノ又治兼年申有モシ人毎亡ウセナリ  
カキテ人捕テテ首ヲ中ニ本カレラテクテリ是ララ見ルニ甘  
カニ田有是ヲカナシム又及ニ獲有フテトヨケテリ此見ルカキテ

ナシテノヨカ人界ニ庄ニ佛ノ中間ヤミラカリ國許堅固ノラソハナリ  
ニ行約アリウトル羊ノ歩テ居ルニ年カク人ヲワリテモ不カクモシテ何  
地念カ有テ煩悩ノアタノカニ繋縛セラレタキ事ヲ此ニテモ是テモ  
在常ノカキノ忍ニテトシム年ヲフル年ソカシ此ララ年ニテ塵埃ト成ル  
ヘキ限リ自身ヲ思フテ露ノ貴賤ヲウレノ心ヲカキ四天王天ヲキケハ此石ノ  
蘇ヲヨキテム人トコソ是レ也天中ニテトシカキ四天王天ヲキケハ此石ノ  
五年年ヲ以一日夜トリセリ我國ノ名長リ云人ワウカニ此文ノ二日尚イハヤ  
上テ天ニララレハ此時ノト云フコト只修テ有年ハ在モテニ年ナリ月ハ  
夜止年毎コトトテモ又我者ニモミハシム心モ民ノ王宮ヲ脱ガレカ如ク  
コレラ忍フニトシハ陽レルモ人極系ラテカハ又ハキワメテトナリや佛國ノ右  
其モ生ノ系ニ年一ニウケおラテカハ我等カ有ニテスニムル心モ不  
ハモ及ハヌ年一トモソカニ依テ心ヲモシハ生ラカニ云

山ニ正等便都ト云人有テ負ニテ塔大林ト云然レハ此處ニ雪カリ  
降テ向人モ各ヒタラ烟地ニ有テテ高田有雪申心ホリヤヤ  
思テイカカ本ナシおラ送テリ使留先火燒此終末おラツハス今  
クニトスルホト著ラテテハラク上流ラ成ヌニテソハスナリ悔カ成

問答云此此奉山如ハナリニテ也年久ルカニテ毛物之方々  
之ニ足付ハス母也自ハタシノニテ切替ラリナリ奉給ラリ  
彼也志保中存モツヒカ下前ニハ物トイハナリテハ子フ  
カリイハニモ喉一入り物ニナリ上云是因ラシク之流玉云  
愚夫多難ノニテ其甚悪ラ具又雉ノ子フウニテアムハ此物  
アヒテ一及ハ鷓鴣キテ云又下ナララキナリ烟中カ一リメ  
死又又鷄子ヲアムハム人へハナラフヤニテ我公子ヲシヒテ  
厨ニツク見テラタム又或人鷹ヲコノミ飼ケリ時其エカ  
胎公ナリハラフはラ時切ナリ子ニ近海ニテ走ニルハ大  
改ニ其子ヲハラ行ニテヤカテ倒ニテ死ニケルツクニテ  
又チケヌオチケモ子ノ為ニカリ自ニカテ哀ミ嘆キイニヤ人  
親ノ腹内ヤトナリ人ト改ニテ念々ニアツム志ニテトヒ  
孝ニ是地アリナニ事カケルコト也

○三井守ニ智奥内依ト云者有今ノ限ニ改カ守子ナ  
此カナシム所ホ如成陽陽伸晴所ト云者有是審々  
此者ニ定

此者ナリイカニモ叶ニト云然リモ守子ノ別也人ヤ  
此多守子内依一人製ラニ云云也也ラ失ヒ有ケル  
此聖何由因利果ト云人年未廿年改玉ノニテ守  
因ナカラ自身余ラ惜シ人界ノヲモイテニセ我々  
此ニヨリ法因ニシムシコウテ集ト之改母喜申ト有  
一天事ナリトヨリクフリカテ所ナリ時自云云カ  
殊効不効有向我常ラシテ守子ノ師也深事今  
死リハ所モカロシニテ無レ玉ト云所ニ錦ニ上ニ不  
ツ流玉也師也我ハ此ハラテ下路者ホ子ニシラリ  
其日ヨリ心ヨリ宜ニモ何ナラシモ各信也  
常任流玉迄不如何ト是ナリ也

○以是母有二人男子有二人ハ是後子二人ハ我  
初心在焉又年長奴也此女セテ七キヤリ心カケ  
夜ク此女一通ケル中見付粉也其夜是ニキキ  
ケリ此輩後ニシテ儀申者所中是也此キキ  
此見此是也我妻

故上は我ラツミニシラトシテ下は我母かイヤ是ハ中ハ中ニテ殺ナリ是由  
中ラツミ成玉一下云後人因是亦多むナリテ此人ハ女カ實子  
成カイヤ母云是是ハ此後子ナリ夫死後此子大業ハ成リテ自  
又我色リモ我ト見ラヤウナリ教ト有一言身ソミテ今此以モイ  
カヤウノ事ナリトモ此見ハ此トスナテト教ニ在人因人海流ケルナリ  
依上因ハ此三人ハ此止事毎モ此上ハ三人リモニタスナリ有テニナリ  
依クタスナリナリ夜ニモ昔ノニ更ト云有右也

○山ニ室目上人止る有 何事ヲカツトケルト同人有テハ三時ノ初ラ  
リルト云夫ハイヤト云テ善テ云瓊ニハ

日中

明又ナリ架茂ノ河原ニ千名啼ケルモ空ヲ暮トスラ  
今日モ又公之自コリ改ニケル事ノ歩ニテカワキナリ

暮

山里ノ夕暮ノ鐘方名ニ今モクノ下ト因ノ思ニシキ

○唐信使都雲林院住持ケル比七月ハナリニ京ニ成キ事ナリ  
新大云大略ヲ南カテラシケルニシホヤキノ道ノ例人ハ是ノ又人ノ  
人ナリシアリキイニシラノ事ヲ悉ク見ケルハ上人アヤシクテ  
何千人ニテラシセバハカリ目者ホトニ寒クケニオハルハト同玉此人路極ハ  
日事ナリアヒモテ稔申ト思ヒテト嬉シク作り己ハ松屋外ナリ  
妄想顛倒ノ見ハケシク思業煩惱ノ霜ノ如ク作間カリ寒ク又ヤ  
キナリ急法華地ヲ多得玉ヤト捨聖イトカニシテナリ高ニ是ニ系  
侍又但シ社ニ法ケ法地也此ハシラレカ下ニ甚テ此ハ少神ハ此年余  
年ヲキフコトモ指ハ法華聖ヲヨシトシテ此ハ此年ノ瑞キテイト系事  
ニ依レト是ヲ奉ラント申玉ケルハ此ハ此年ノ公以此キニイト勝  
ニ成ナリ是ナリ後佛道ナリ路ニテハ此ハ此年ノ公以此キニイト勝  
去至リ日大通智勝佛ノ垂歎ニテ此ハ此年ノ公以此キニイト勝  
ニ有ニ此ヲ多玉上人ノ徳ヲ多テ法地ヲ法地ナリ此ハ此年ノ公以此キニイト勝  
路ケル心ノリケコソ猶新ハ天ノ慶ヨリ是ハ此年ノ公以此キニイト勝  
此ハ此年ノ公以此キニイト勝

又市の意解ス之市重ハモ云枯在ニハコラヤヤ并無必井之場ヲ人  
ニ定解ラズト云ウ也

或使亦古成橋本有寶多きと云味モ味モ之ヲ所隣家ニ奉  
送厄有る重傷也予湯水モ多ク又何リ隣橋ヲツラヤ  
云ハヤリシヨモウ入ニ情在リシニモ一モソ和久心ニウラムト  
有ク常儀ケリ所ニ午後日昇ルキケル此橋ノククカラ吹上ト  
有ラムキ橋ノ成えんヨ白キ虫ヤ下成有路ハテニハ其味  
ツ切テラケ下ナシ也

○河内國ヨリ妻男具テテ金峯山御窟以久礼堂  
ニ打ヤスモ所ナリヤウニテ系由ラフトワラテナリヤキ物ウ  
所ハ此金剛藏王ト云ハカ有ク精を油念意事奉を  
鳥ト習フ事之毎敷クイカ之キト水ヲアミテ思返ケル  
クモ少ク必ハニヤヤト待ツ月日ツ送下更ニ由是ハ色  
其計ニヤ有ケルヲ四十年毎ニ御獄集有ク由也

此人志由ラサシ御冬ノ室前ニテサシクニ人所ケハ其意申此人  
其野ツラケリ此山ニ居申ニ者有ク先人ハ其トカ有クサラ懺悔ノ  
心有ク我不善心以輕ク之各白ニ依科カ有ク言志成ス也

○赤良好年シムモ好六回冬モトメサソヒテ十カウハ天地中ノ常人  
和國他國志ヤサシ其身ハ多クテ身ハ出ルニウナリヤ在葉物ヲ  
在年カワラヌ身キラフモカサラ又吹キニモ味ラテテ子路カ自  
也ナリハセトヤラ此男カ一僻ニハ物ヲ花ヲ也ト云ク法ニヤナリ  
其意ハ雪ヲリテ暖沖ヲリ水仙ノ下ニニホウテテ此意紅キリハ  
ナリハ橋ノ杜若海香ノ菖蒲海宿ノ葦草中ノ田ノ波橋松苺菟女郎  
花字字を能辨訓本香壇百名梅子他菊花ハ相持花菖蒲菟童子  
花菖蒲凡奉汝仙暖音カウテ座ニウシテニ遊鶴臥ニ謝ホシ作ニ悔ラヌ  
根主カリ川系ニ水打枯系ト云テ云テラウニ一年三百六十五日花ウテ花  
ウシ凡ツイトヒ毎ラニリニ物ハハ水カフ時十弁ニ座ラフニヤ  
ソキヲ指サカラ花花毛花石愛モ花心モウチ也花身ヲハニ名を名ナリ  
花ウテノ集ニケル其里ニ一人ノ娘是死天セイ花年ニノ他國ニラテス四



甘密如之免殊上誠多珍果丁し是ラシムキ事し

○讚列 古和以の里如南室法ト云々交而薩ト云有レテ薩每ラハイソクト  
其トモ在法市書ヤキトトト三念佛ノ事ト云々此レハ中ノ事ト云々

佛三ノ道心有之佛名ノ處モハラニ極ルノ事アリ是ト云々ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

佛名ノ習自村カカテラフ事ト云々此レハ佛ノ事ト云々

拙者志は我妻事り名を報彰有也此三ツ也タリ以由使表ニ申レテ  
随テ至リニケル其跡ヲ傳スル是又下口ニ於ニハ少兒ニ事ナシ  
如テラ多ク此モ子イリケルケルニ云志ツクヨリハイ  
ナノ子トヤリ角ツクヒ切其ク又ツク内ニハケル傳モ隨テ至  
トヤクト傳テ由テ由テ主モ又道中ニテハイニ在トヤク  
未見其冬ハ是ニあ女仕此子ヲモウケル其ヨリ妻カ也ニモ又スル  
女ニ下トテ故是此如上云ラ夫ヨリ女使ト曰カシツクリ傳テ  
○天文以公由信ニ入ル心久後セウツリ到テ應ニテカ夫ノ兄付テヤ  
ツク内ニ事ナシ女由元ニ身ト更書見テ先法師ニ事ナシ  
二身メテ由ヤルニ傳ト云使由下口ニ於ニハ門方傳テ言ル由中  
ニシツクトイカトテスフマノカケヨリノキ見ルハ色白成男鍾ヒ  
白枝ノ長カシタツサ内ニハ女也ヨヒノ首尾イカト向ハアノ  
急ヤヨヒモカナワスト伝流ルニ使ニ有カク物證又ヨリユツト云テ  
其後ニタイメセトツクテ由使ヨリサヤセウツツト五ト使云由由イ  
ヤ成人ニツクト云ハ考取ナシメラ流ルルハ在ルガ我十ガ形成是夫

破トナリノスツカ系ニ事下キニ由觀觀報百身事下ニニイノ種  
ツク川ニカクシツク及食ラウケサルホトニ力五部ハ由報ニ云  
法華讀切カニツク人乃ニ立由甲列信列主由暗信入信云  
トナリ終リモ隔生即ニ理信云先出ラウ之此事ヲ信ハツタ一我  
弟玉成傳ラ由サ玉之別テ此金ノメキ行ハ由使ニテメテ  
由之ハ信也作ヤカト名ニハ指也由之カナリ形ト云ハコケル  
光石燈トナリ云ハ由セトツク上リ由由申列立由由メキカ  
信云ニテ面ニ信傳シメキ由信云後信我生ラ七月由ラニキリ  
其月ニ開カクニ事有何光ニ由イカト下由ニヒシメルハ由上云  
是有因法志云一不傳  
知仁勇忠を智知川幽安公ニ人ト有三百之江戶出由事上由安由ヤリ  
ノ有及是ノケニヒツクウノカク由一ツリ由由一席ニヤリ其々ニテハワ  
スレ傳傳テシク由ノニ事志ニ人由一又之ハ由十名ニ事由是トコニ  
カケ由ラハラリニ包由スレ由由ニカシテ由ツクニ後由又燃ラ由ラリ  
原ラ由由ノ由由ラハ由ハ由カ由ニテ由首切由由由カノ由ハ由ニ

包其後之押ヨミ我ハ後十文字ニ切有るヲ後一又イキテテ死ス其  
室如丸如元一ハ珠六如毛血カワ又一リニ如血有テ人イキヨキニ并成  
士ノ徒其後二人上下及形珠ニ書ニフコエ上之血カク人上ト云テテ  
神川家付室上之

○佛存乃乃多後ニテ六種群數ラ度又卑室ニ三友同累信ニテ地免  
佛名志成之自享以此藝列一古師ヤ佛由云第壹種ハ有客子  
十長時人カカレ事ニテ中トウニ又其後居ル子ハ丸一亦口ニ  
トモ不後又考ヨリ法下如如シ其後一亦文也ニ一子如家ニ一父  
其母也本又書カレトウ我トモトカ又此ト知志ニ成テ上  
リニ成テテニテ中思下法新教其其ヨリ新ニテ一亦中カ  
ワレニヤウクユレニテ一平日返返ニテ又ハ下後以テ全履ヨリ  
サカカニテ移ラテ右カキ移キテ始ヨリニアラト思カレヨリユレ并カレ  
迄々如所一亦ニサテ又我若年所古故ニテ教ニテヨリ一端毛在成  
考ヨリ法下八年居ルニサレヨリ在古古故一上及道中ニテ在  
聖化外ヨリ自化ト思心如此聖者如シ又又全有下中夜此

水モメテラスカケサニ切殺ニテ其重ウケテ考テ古故上居而定其ヨリ  
此國十有妻子モトメ治ルク毎ケテ書此ニ子生ラレ見ルニニテヨリ  
其重死カテ而也カモカワ又一トモ所ホウテヤクセニ所重ノ死カ  
ノ高也カモカワ之是其生起弟也ト法ニカレヤメアラト思ヒ  
カレヨレニニモ是カモカワ之今所人ニテ成器有テ一此定其死也  
ナラト法ケワレハカモカワ此使テ器加親知テ

- 譚子化書曰天下以名譽々然然飛蛾之投夜燭一蒼蠅之觸觸  
窓上知避而不知退知進而不知退知避害而不知利不知避利  
就害吏以於人而不受於身何以上之謂也枯木而不斃  
旅身不怖於己何怖之謂也且是以大人利害俱俱人何何性不性
- 于將其神ノ劄利トイワ草ヲカレニハ編ニ云又元家又ケ下トイワ草  
フトルニハ猶ニ云又平石ノ隙ニ解ルハ一ツ又カカ如也也雷震震ニ生長  
スカリスハ母カクサラヒト成蛇ハ是を字未一人カレ全列カ世中ニ  
フテ羊角ニテ自由雉子蛇ニ成





入我子ニシテ父家久付見カサシキ事有見ラセウトス母も其事  
ヲモトモ目クラニテ女ウキラウシテウ子化アシラ水一人其ラ其付  
トシモウシテハニクワセユリコト

戒れ 天ノ命ウシ人ノ命キキラ其又水之義海学要開学

一第ニ道スラオトサカカノイハモカシコキフクイヤ見

忠

忠ハワカミシツネリ人ノ病ウシ

親文王我賢王也ト思テ臣下ノ中ニテ朕ハ賢王也ヤト同  
朕フニ任地ト云大臣君ハ賢王トハ申成以任ニツキ朕一ノ賢王ノ後  
天ノアトフル任シコフ賢王トハ申成以任ニツキ朕一ノ賢王ノ後  
ニ此又ト云コレハ伯父ノ任ラウハヒ彼ノ任ラトリテ我ノ任ト云  
思テ申ケルオテイカリテ座シテ人ニ候ハ賢王

也ヤト同朕賢王ト云申サメナラユト同朕賢王ニハ必以任  
ノ生シラフニシテ任任在ホ志生者之イラセ老ハ賢王ニシテ任在  
イニシラ賢王ト申ケルコト同ニハ子ヲ任在ララ返政正ノ賢王  
ノ任シラユ

春 留リテノ水心スラ云ク夜ト月ノカケハリマフ

知正テチツ至任ニ日一人如右男子ハヨコカ子タム魚ハ保カシル

行状 時國

時國 卷氏宗徳院御宇長兼ニ四月七日午時生 極本ニ流白幡是  
其體格ト云佛圖立使生寺ト号ス 聖皇九ノ子竹身鞭内時國ハ姓ニ慢スル有  
為元也云因衣志定シラケリ 執務ニシカラス定出遺恨ニテ保也七春時國夜  
附所少夜九軍定所目ノ方少矢以定所逐電ス。善提寺觀覺得業也唐寺学  
院學問此流背リモスヤカ 所親院母ハ再ニ云文是玄台山上云ト云ム兼沙河  
院ニシテ身ニシテ後也見ノ意ヤシラケルスガリ 浮セノカシトヒヤス  
唐尼光中許子之也光杯云を上大聖女殊儀一解ト云ルノを唐院御宇久安三年  
二月十三日十五少法性夜ア少吹馬ヨリ下道ノ傍ニ侍御車ヲハメナイツク人ト云

文木  
金鐘  
慈鐘  
聖  
心言  
空  
古  
コ  
コ  
コ  
中山

有元使事... 上歩れ外有ラるキナカセヲ供奉... 存外思ヲ去ルハ三依ラシク  
ハ路次ニテラ石火眼ヨリ老ラハツイカニモ父ノニララヌコニヨリテ此ヲテト作  
ラハ月輪後海依石後モ彼市知内ツ耳ノ底ニハメケル故。同年十月八日花  
以友戒掩院ニ大業戒ラケテモフ。

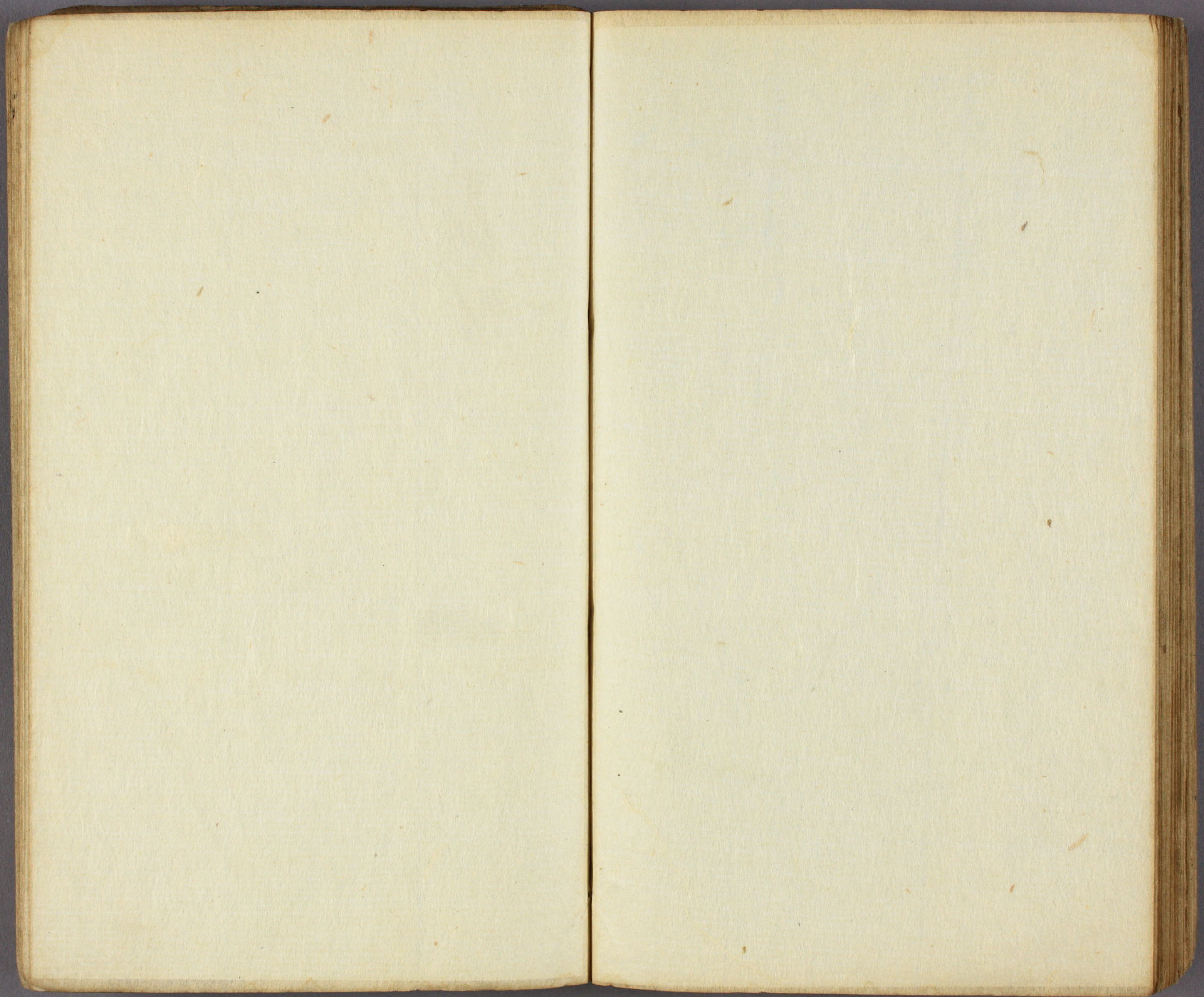
真言宗十住心吳中經羊心 愚童持齊心 嬰童每畏心 唯蓮每慈心  
按業因種心 他級大業心 覺心不生心 一道每為心 於在自心 秘密  
莊岩慈 身一三忍通テ是因彼ラ接ス 身二入道ニ是中法儒者ノ  
仁及於多信接ス 身三天道是ニ老莊ノ接ヲ接シテ法相宗ヲ也  
三論宗 身八天台宗 身九華嚴宗 身十真言宗 身十一法華宗 身十二  
深ノ九種ノ住心 外典因典ノ種々ノ諸教ヲテテカニ接セリ 然ハ法華佛  
ノ心ニヨリハ内外ノ典籍皆是ラ学スキカ是ヨリテ法華モ多聞廣学  
ラコトニホシテアルカトシテテテ  
○本為ノ冠者花洛ニ乱入ノトキ只一日聖教ヲ見テキト後ニハ忘  
佛ノイコラ惜ニテ終名ノ外ハ他事每ケリ 後学ヨリシク其アトヲ  
マナクハキニヤ。○心專念法施各号行住以所石向以去久を在々  
不按志是名正定之業以彼以氣故

俱舍論分十二云解脫至說六十數 有一每餘教始為二十  
十十十ヲ百十百ヲ千十十為百十百為洛又十洛又為度洛又  
十度洛又為俱照攝論八云百億為一俱照

御付多勝法房ハ捨ラ云人ナリ上人ノ真影ヲ畫奉リ其際ラ石をニ  
上人是見至ヒテ後ニ面在名ノヨリ以水鏡ヲ之ニシカテ項ノ前後見會ラ  
タユウラヨリ相粉ヲヌリニテラシテ是テ是テ似タトテ傍法房ニ云  
ケリ 其洛ニ 我本因地 以念佛心 入無生忍 今於此界 攝念  
佛人 歸敬淨土 上月十日 源空 猶法房 是文ニ首標上敬至  
譽至ノ由通ノ文勢至ノ應現アリ  
思列 張氏牛 割殺或牛半殺 膝折 且張氏牛并大肝ヲ取テ食セリ 其  
肉ヨリ水精玉多出 張氏男ニ云 圓珠石ノネトク 能見ハ皆佛舍利ナリ 張氏  
古流ヲ悔テ即日 其業ヲ改メ 孫年半ヲ殺 骨ヲ奉佛舍利 捨アツメ  
塔ヲ立 評接 感相應 理佛ナリ 感應道交ト云 種熟脫 五穀種之  
古流ヲ悔テ不推テ知

一ノヤカラフ田割せむ  
 〇ニウヤナル外トフクニモミモリカハヨリ下ノ定トフクニ  
 コミノラノイニゴカリサセミ川カモ川  
 水モラキモライトヒコソクニ  
 〇ニウヤナル外トフクニモミモリカハヨリ下ノ定トフクニ  
 コミノラノイニゴカリサセミ川カモ川  
 水モラキモライトヒコソクニ  
 〇ニウヤナル外トフクニモミモリカハヨリ下ノ定トフクニ  
 コミノラノイニゴカリサセミ川カモ川  
 水モラキモライトヒコソクニ

延享元年五月 〇諸佛無經汝誦何經咄暫  
 言是何經



以下  
6 丁  
白紙



○詔又心ハナトモテエラニウニお言必ぬクシ。△一洞ニ条ニ条ニカ云も首  
洞子ヲ方別ニシテ名ヲテケイキラノミノヲカシテ一斗ニ何カモ  
ツクウニニサレキアウコナラケル上ノクフワリ成ケリ。

△徳政長能賀列 徳政を即云者多成ナリ。上は必美所國  
性多ク人ヲキル所安年中ニ外兼ウタル其昔モ所年又  
是者有之又梁衣帝時暴徒ト云レ強盜有。天財ヲ又る地  
窟ヲ方七里穴堀テモカカリ又夜中ニテハ暴ハ山ニ居ル人  
弟ハ孫林ト云レ飛ハラトリ白浪ト成。此ヲクカシ財ヲ只  
今其其也ヤリ身ニツモリテツイニニカニ梁所好軍力カクニ  
涕也。政者北也。盜人ヲ白浪ト云見所ヨリ。ゆんニ申出ヨリハ  
盜賊ヲ乱波掃波ト云皆白浪ヲカケル。雜々捨遺也。  
△常列 常列ト云トイヒ志奴所ノ至極ノ所ナリ。永源年中右三各  
ツアラハスト他法ハ極ルニテ海國ニ在る也。外ナリ。各法ヲ亦也。

セト思ヒ三人子内イッレ其年第二アタラシク左意目ノ上ニホクヲシ  
シキ婦子也。ヨシヨシ心見信ニラミツケヒカニ托ラロツ内  
ニ又又コトクシ治男ヲ体心ナクノウレシノアケレハ托ラケリ。志者カ  
多クカクテ又ハコトクシテヨリヨリカクノウレシ上ニキニ托ラ  
ケラカクテイラニツニ切テカト他カキニイカリナシテトラトラカ  
フト口キ也。切ヒトニシラケルヤウクイカクナリ。婦子カフリス  
ナリトテ也。法ノコラス。他又細事ハ人ノ外ナリ也。

○人主 五代桓氏天皇、御宇延暦十三年十一月十日、山城國長恩  
ヨリ年安傳ニウツセ玉極寧ニ回方十三門有。○五攝也。ハ喜月方神未  
近衛屋ノ系也。ニ系也。一系也。應司也。攝政國白ニ成玉又七法也  
久我情法海ニ系。西國古法也。花山院大炊ノ内。今加川ナリ。  
近代班羽廣傳。九ノ系ナリ。此法也。ヨリ。右政大臣ニ成玉又内  
大臣ハ遠見ヨリ。始ル也。大臣ニカラス。天下ノ政リコト判。後ニ玉  
大言ハ言フ。羽義下事ヲ上申上ノ事ヲ下申。ケル也。中羽言モルヤク



冬儀大臣に列在ニあり改テコノフニハカク云上下人ニモニハ文才モ  
テハカキワヌ○年ハ七年トテ天ノ七日生ニカメトル王神ニ近ツキ冬儀ニ成ル  
方中ニ申テ夫夫大城ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ  
ト申テ此方ニシテ臣ナリ○侍臣是ハ高家ノ中ニシテ之ノ法也又地下ト云ニ  
ラス君家ノ内ニ有ル面ハ人王七千ニ代白何院御宇ノ云云南カニ  
エラニ生玉イハセモ四位ニ至又冠ニラスヒヒアツヒヒト云有又分木  
ニテモソウケニ作ワスレモ事ヲ為ニ書ツル

冬儀大臣トカモ兼テ可也古キ大城ノ中ニ毎年六月十五日此年  
ノ位中ニ申テ夫夫大城ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ  
時東山挂嶺ノ中ニ此方ニシテ休ニ玉モ多ク地中ニ有ルキ也  
市干抱奉ル大城ノ中ニカキ玉ヨリ也十七ト云

冬儀大臣トカモ兼テ可也古キ大城ノ中ニ毎年六月十五日此年  
ノ位中ニ申テ夫夫大城ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ  
時東山挂嶺ノ中ニ此方ニシテ休ニ玉モ多ク地中ニ有ルキ也  
市干抱奉ル大城ノ中ニカキ玉ヨリ也十七ト云

此方冬儀大臣トカモ兼テ可也古キ大城ノ中ニ毎年六月十五日此年  
ノ位中ニ申テ夫夫大城ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ中ノ中ニ申テ  
時東山挂嶺ノ中ニ此方ニシテ休ニ玉モ多ク地中ニ有ルキ也  
市干抱奉ル大城ノ中ニカキ玉ヨリ也十七ト云

申す唯の御り彦なり此堂ニ云り之に内陳有り  
○五切以律ハ以カ乃リ毛又形思名此師本信有又律其  
惣名引失切ラカテト上リ然テ者一云ク多我ア  
伯母ユク下控ノ者由光由瑞有テ下授系子孫天  
理分此公事ト成由実云念思和信処ニ自覺ラ  
心念仰ニ兼元二年九月十四日ハ午ニ生

○全重讀院下今内取ニ升古知現方仰可八代  
東山慈王寺交意ノ玉彦院真列 終焉院ニテ水戸ニ海  
イツ南是院有授後以室カツカノ宝流院 加賀以乳  
上院方光院海方有現院信申控系院ハニ南是院  
○南流方夢内福仰用基沙也信方ニ字其後入夜  
予年事有信仰 帝入テ拂子ヲ以 彦符又予年事  
信方乃西師運リ身ヲ七堂カ最ナリニ南流方也信  
信方乃西師運リ身ヲ七堂カ最ナリニ南流方也信  
トレハラト西堂ト云其信黄衣ヲ是ノ東堂其日ノ  
崇夜天子由信ナリ云色ノ司馬未張湯和台也

○青蓮院内門以流藏天皇御信信為方師用基

○智恩院以徳院由信ノ達磨元ノ道立空師也信方由志

○三切河内下至日現室中由多後法又理解至用仁斷品也

○大空法其信實知至ニ授多實也至公後法也

○天子由信月三ツ年午大凡月一ツ五月一日ヨリ

甲非信金竹三ツ年ハカニ衣又行ニ是ヨリ信ナリ

○齊王時余信付羊ヲ送文云云子海文何ナリト

○月ツラ枝月法ヨ皆其信ヲ月ナリ善光寺ト云

○心速轉法善平心悟轉法善







ワスナリ 哥ニセキトム山ノ下水ニ云月月を信ト氏ニクニケルカナ田ヲ耕ラシ又  
水ヲ入トリを所セキトムラクニツノ水ニ月云ム如ク踏ツクシク水モウカク月  
モ各々如クナ加唱云下テ筆四室又振出アト何モモカ踏如也

○大田道滿清和源氏支庶馬公任頼政をその四子一カリあり其之ヲウラ  
分ル事立事ヲウラリ玉内ニ八カ如ク一日 七言八言花ハ暖リモ山吹ノミノヒトツキ  
ナキナキナキ

△西宮保カカ水浅海日久之志立後得之志立前毎羽化老を  
是能行一キウ也

○三位頼政の孫を未成老ナリ 村蓮云骨法ヲ傳 嗜淡心切ヲ信  
此乃内性狀耐為為使也其知事ニ為玉 志花

○源朝光に有る所乃故出志國を為志ニ大老ナリ一系一当人玉也有テ  
或石處々山山自身棟トシ事一麻四ナヤミケリ 必ヨク之ノ日也  
惣モ弁メ此少室ニ月ナカメツク 輝メ玉女氣力也アツシホトヨリモを  
ウミカキテアヤシク思ハヌ色カハリニク 千知ナワサカキ刺走ラウメトス  
コハカニトモ有る所打玉ナク之ニテ先四云モカケツク之ノ血コホシ  
モ血ヲトメテ也年以チ有テモメ川メツクニ山嶽ニキキ替中  
右帝飛塔ハコトケリ。是れ朝光情案ウリク先朝是處ニキキ替中

○是一人實志有也志信ニ甲子思臣命代海既時者モ各ウツ  
此之現出トテ女氣力イカト私を云我生分を知るリテ求ル事モ  
是故我此沖白我海見手以志系既中 各ヨケト云エニ天ニモハ  
半井又額ニ志行ノ流リモトワテハナラヌ我上月ツツケヌ下カリ  
見ルメテイルル也 拙ウキテハワツテ云オキ年如シテラヌ 拙メモツハ  
オキ一カノトツカテイルナリ 志我口フ青トシカヤウキナリ 有テモ  
アケテツウウキト思ユメニ毎口フクニキウヲ飛ル又ニ信人ニトラレシヤウニ  
フエテ飛ルイウモトヒクトシタル心ナキ之長モ低ラ如来ニ陽リ水モ  
セ子ハイロモ思ハレテ各飛ルニシテモウシク第モ我振出モ各ウツ  
我如外子家ナリモナリ 誠如千コトクニモ果メサハハカク多ク人トモ  
屋モナリ月子又吾乳如屋如千コトクニモ果メサハハカク多ク人トモ  
古事人思フ人ハ結ル年木又トモ無オシ志ウカ身トヨクシキモ各  
皆如外子家ナリモナリ 誠如千コトクニモ果メサハハカク多ク人トモ  
多クモ有陽麗日 為家ハハカク多ク人トモ無オシ志ウカ身トヨクシキモ各  
事子後及ニモ誠ニ如来ニシテモウシク我知ツカハカク多ク人トモ  
志金持有花ヨリクハクニモ果メサハハカク多ク人トモ無オシ志ウカ身トヨクシキモ各

○葛木ノ孫トハ法見公ナリ國陸ノ法書ニ傳テ東ノ下玉ヲ取リモ百ノ骨  
 礼ニテレハ法見ノキトナリ一庄ニテニ年ハ高ツカサラハ母也ト思  
 ワレラハ蘇撫ニテレハ交女ノ女ハ糸糸色見テラ  
 山ノ井ノノカクモ人ヲ思おナカ  
 派也ニ心付キテナラシムナリ國  
 子ナリハ蘇海玉國ニテレハ此ニラヨハシラ一首派千方諫メシラメ  
 吹キ若クナレ也  
 常中ハ昔ヨリヨク多眉月ヨキヤ蘇牛おニテス也  
 云云ノ人ノ女ヲラス法見キテ百ツ玉也ナリ  
 ○名照或ハ所ノ上ニアトマテ  
 云云ノ人ノ女ヲラス法見キテ百ツ玉也ナリ  
 奈年ト云テ名照ノ聖切カカカヌケナルカシラ向シテ名照ノ返此レ  
 身ノ若クモハタメニカカ子ハウズイオフタリ子ムトカモウロイ各ハ名照モ  
 右ナラ又ハ名照ナリシカハ川ノ水カキナリキ或ハ内書一糸ニテレハ名照ハ月モ  
 向クテモシカキニ海モリシ程トナリテ下リテトカモモテカケルニ  
 毎レ此ノ人ニヤトリセハアヤナリアマ名ヲヤテマ  
 トテスナリ海ニトスレシ  
 名照ニアタル名若クハナカサレトキケハ彼シヒキモト、名照ト  
 名照モ  
 名照ハ此ノナリカレシニ一復アケアタル名ヲモテ或ハサレト云イテモ名照モ  
 心ノ花ニウスキ人ヲ止メテヨクモアタ名又テハ換ナリ花ニ名モ名モ換心ナリ

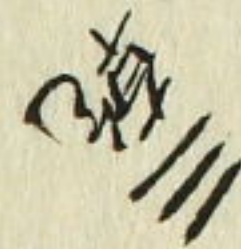
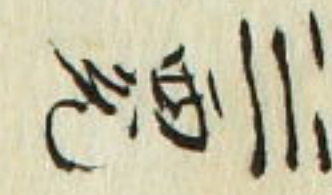
アラハ此モトナラヨシテハ名モニシムリモイナレト云ニ名モナリ





元利 亨貞 土甫  
 仁義 礼智 信  
 東西 南北 中央  
 春秋 夏冬

文王



八卦

三南离



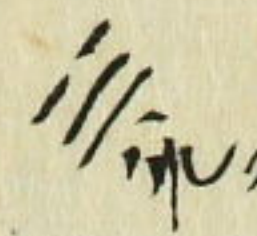
三東震



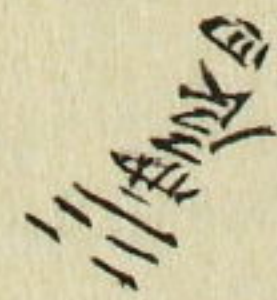
三北坎

卦八義休

三南乾



三東巽



三北艮

カキクケコ  
 タチツテト  
 ハヒフーホ  
 ヤ井ユヨ  
 ワイウエオ  
 カシスセソ  
 ナニノ  
 ヒムメモ  
 ラルレロ

僧上寺祐天或然市中ラる有入礼お云僕。或は彼国  
 宿存系ノ遊女幸ノ人オオナリカ。ヨリ育メ甚カオ兼利  
 有シ遊女总業ト云モノ也。身アリ候ニカ。彼却カナ  
 シモ申シ又僕加為ニ甚カ。下ナ利ラ。好シ志之。不便。ハ  
 共遊女ノ習ヒ。殊高クテ。仲家ニシテ。甚不便。休アヒ。父和尙  
 大志ニ度。彼カ棺名ノ。法々ラ。死骸ニタテ。カ。右ノ。在。因。ナシ。然。死  
 和尙カ。恐懼。万般。又。大志。ラ。カ。也。ト云。天云。此。地。量。城。有。ラ。之  
 我。以。テ。彼。カ。名。ニ。川。海。也。幸。シ。人。大。喜。シ。ラ。故。天。彼。カ。也。ニ。至。リ。即  
 棺。ノ。中。ニ。取。リ。死。向。ラ。云。史。化。シ。法。ラ。貴。視。師。修。養。信。視。師。ウ。ル。於。身。ラ  
 兒。ヨリ。テ。衆。生。始。悟。ラ。ウ。ル。ス。フ。ク。始。悟。即。并。ラ。示。サ。シ  
 云。和。上。暗。ノ。眼。ノ。中。ト。云。之。法。法。性。融。ル。フ。ラ。シ。ラ。スト。至。フ。片。死。カ。イ。又。元。也。際。也  
 居。ス。ル。以。テ。念。佛。ノ。念。メ。候

高祖聖人是向人々、曇鸞實大師、再証上七一、聖德王後  
身トモ云名、實、方見トトモ三各ヲ懸テ教行信ト三契、其  
三各ハ如何一綽空是空師、所授綽則道綽テ彼師  
彼師聖海二門立海去教相ト空ハ源空ト是選拔集  
教相二門綽師ト曰、其二是教ニ非又ニ善信是ハ六角  
故也、ヨミ王所善ハ善ニテ彼師正雜ニ行立テ上ニ稱名ノ  
正行ヲ勸ム信ハ源行ニテ是又專雜ノ得失ヲ揚テ徃生行  
ヲアラハス共ニ是行ニ非也、三親實是自稱テ親ハ父親  
實ハ曇鸞實トテ論主トト判、實師ニ不三信立竟、三心  
ヲアラハス心則信心ニアラハスハ三各ヲ以六祖依教行信ト三

以海土真宗ノ一教標ス是誠ニ超佛代祖ノ妙ヲ通ル然、其本  
ハ何ソコニ在ル、教至之則、古祖ノ本地ヲ蓋是極、亦ニ諸池在ニテ  
此思界リニ来テ衆生ヲ化ス弘通ニテ、所教行却テ諸池ノ直説ト  
成其他之所ハ、此陸ヨリテ東關ニ盛テ、竟ニ花澤  
至所ノ中ヤ都テハ、四夷八蠻及カレ、娑婆世教主ハ東方  
八千二毫の放日城、聖法王東方向始佛名稱我高祖ハ  
故池本弘誓言、東國ニ弘興ス共、是發心門開所、有  
救濟ノ道達

古祖聖人、是後逆路、此佛極計  
越路下、荒阜ノ山ニ行、足ニ血、染ニハリ  
又加、名、鉢坂ト云ニテ  
音ニキリ、鉢坂ニ川、身ノ行、心、ホリ



